

令和4年度事業報告書

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

公益財団法人 **オイスカ**

目次

はじめに

1. 海外開発協力事業	1
2. 「子供の森」計画事業	9
3. 人材育成事業	1 3
4. 啓発普及事業	2 5
5. 収益事業	4 2
6. 組織の運営	4 3

はじめに

昨年 2 月 24 日にロシアがウクライナに軍事侵攻して以来 1 年以上が経過した今でも同国内での戦闘は止まず、終わりの見えない厳しい状況が続いております。この対応をはじめ、国際社会が一致して取り組まなければならない環境問題など多くの課題を抱えるなか、国連の機能低下が危惧されるとともに、より国家間対立の様相が深まってきております。同時に、核を保有する三か国と海を隔てた位置にあるわが国も、第二次大戦後最も厳しい環境下におかれているといっても過言ではない状況にあります。

残念ながら、毎年毎年さまざまな自然災害も世界各地で起きており、我が国でも本年は 1923 年の関東大震災から 100 年という節目の年にあたります。近い将来高い確率で首都圏直下型地震や南海トラフ地震が起きるのではないかと、との以前からの予測も、ここ最近頻発する全国各地での地震を考えたとき、より身近な警告として受け止める必要があるのではないかと、と思います。

私たち人類の唯一の住処である母なる地球が、このような悲しい国際政治の現実を深く憂慮するとともに、人類は歴史から何を学んだのか、ヒトの性とは、と改めて考えさせられます。併せて、オイスカ創立時の理念のもと 60 有余年にわたる具体的な活動の意義を再認識しております。

さて、令和 4 年度は新型コロナウイルス感染症対策の緩和もあり、コロナ禍前の状況にかなり近い形で諸活動を推進することができました。従来から継続している諸活動に加え、60 周年を機に打ち出したアラル海での大規模な緑化計画も具体化の一步を踏み出すことができました。こうした諸活動もひとえに賛助会員や支援者の皆様の心温まるご参加とご尽力の賜物であると深く感謝いたしております。

財政面でも依然厳しい状況は続いておりますが、支援者各位のご協力を得て、①海外開発協力事業、②「子供の森」計画事業、③人材育成事業、④啓発普及事業の公益 4 事業をほぼ計画どおり実施することが出来ました。改めて関係各位に御礼申し上げます。

オイスカに対する国内外からの期待に応えていくべく、活動の効率化、財政健全化に向けて引き続き取り組んで参ります。今後ともオイスカ活動へのご支援とご協力、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和 5 年 6 月

公益財団法人オイスカ
理事長 中野 悦子

1. 海外開発協力事業

総括

日本よりも早くコロナ禍による行動制限が解除されていった東南アジア、南太平洋を中心とする活動国において、ようやく研修生の受け入れなども徐々にコロナ前の水準に戻りつつある中で、今年度も自然再生・保全活動、海外人材育成、持続可能な産業の開発・促進を中心とした事業が推進できた。

自然再生・保全活動では、自然の力を生かした社会課題解決（EBS）のアプローチを取り入れ、持続可能な森づくりを推進するため、各国で住民の生計向上を組み入れた事業を推進し、気候変動や環境破壊のリスクにも対応できるような環境保全活動（Eco-DRR）を継続した。また、ウズベキスタンにおいては予めからの企業・民間助成に加え外務省の日本 NGO 連携無償資金協力（以下、N 連）による沙漠緑化プロジェクトも始動した。

海外人材育成では、制限の少ない形で研修センターでの活動が続けられ、リーダーシップを発揮できる有為な人材の育成に努めるとともに、技能実習生など多様なニーズにこたえられる地域から必要とされる研修内容の提供に努めた。

持続可能な産業の開発・促進では、フィリピンでの養蚕普及事業が昨年度の台風被害を受け心配されたが、公的助成なども受け復活の兆しもある。また、インドネシアでの伝統的な生活様式を守りつつ生活基盤を整備し生計向上を図る事業で、N 連を活用して地域の指導層や農民とともに活動し、水場など公共インフラ整備、有機農業や畜産、廃棄物管理など前年までに配備した機材などで実施できた。住民の生計向上にも資する活動ができたと考えている。

また、緊急支援活動では、2 年以上に渡り困難な状況が続くミャンマーで、食糧支援等困窮する住民に直接届けるなど命に係わる支援を実施した。引き続き予断を許さない状況ではあるが、農業支援などの要請にもこたえていく所存である。

これらの取り組みから特徴的なものをいくつかを取り上げ以下に紹介する。

1. プロジェクトの実施成果

<自然再生・保全活動>

オイスカは Ecosystem based Solution（EBS）⇨自然の力で社会課題を解決すべく、令和 4 年度も引き続き世界各地の海岸沿いでマングローブ林、山々の森の保全並びに再生活動をフィジー、インドネシア、フィリピン、タイ、バングラデシュ、パプアニューギニアそしてウズベキスタン等の各国で活動を実施し、約 270 ヘクタール、75 万本の森林再生を行った（「子供の森」計画での植栽分含む）。

新規の植林活動も重要ではあるが、オイスカがそれ以上に重視しているのは保全活動だ。オイスカが考える保全活動は、大きく分けて三つある。一つ目は、補植や草刈り等、植えた苗木を育てるために行う通常の維持管理作業。二つ目は、台風や津波などの異常気象、そして火災など人為的な脅威から森を守るための活動（Eco-DRR 活動）。そして三つ目は、森を地域住民が長く守っていきけるような、環境教育や生計向上支援を含む、住民に向けて行われる様々な施策。これら三つの活動がバランスよく実施されていくことで、再生された森が確かな形で長く守り育てられていく。以下、保全活動をプロジェクトの中心に据えている事業をいくつか紹介する。

1. フィリピン ヌエバビスカヤ植林プロジェクト

COSMO エコ基金、電力総連の支援を得て令和 4 年度は約 6 ヘクタールの新規植林を行った。このプロジェクトの最大の問題は火災である。周囲は本来であれば森林であるはずだが、実際は禿山と化し毎年周辺で火災が発生し、火が押し寄せてくる。特にこの年は火災が多く

苦闘の連続であった。周囲 15 ヘクタール幅約 8 メートルの防火帯の設置・維持は必須だが、それだけで火が植林地に入ることを防げるわけではない。火災の知らせを受け、プロジェクトスタッフで構成される消火隊が昼夜に渡り命がけの消火作業にあたり、何とか延焼を防ぐことができたのである。一方、防火帯維持に必須となる機材がブルドーザーであるが、既存のものは購入後 20 年が経過し、使えなくなってしまった。そこで COSMO エコ基金、電力総連をはじめ多くの寄附・募金をいただき、中古ではあるが状態の良いブルドーザーを購入できた。今後の火災対策に希望が持てる。

2. インドネシア ジャワ島マングローブ植林プロジェクト

同国ではジャワ島の北岸を中心に 7 カ所で活動をしている。令和 4 年度は、35 ヘクタールの新規植林を行った。新型コロナウイルスによるパンデミックも収まってきたため、保全の要であったマングローブツーリズムが少しではあるが再開されたことは、今後を占う上で明るい話題となった。ところで、マングローブには防災・減災の力があるものの、当然ながら全ての災害に対応できるというわけではない。プロジェクトを実施する中部ジャワのダマック県では、雨季に何日も続く強い波により多くの土地が削られ、住民が移住を余儀なくされる事態も発生した。

波による浸食被害に対しては、マングローブも一定の効果を発揮してはいたが、それだけでは村を守れないため、プロジェクトの施策のひとつとして、3 年前にコンクリート製の防波堤を建設した。グリーンインフラ（マングローブ植林）とグレーインフラ（コンクリート堤防）の組み合わせということになる。防波堤の効果は絶大で、マングローブとともに、住民を波の脅威から守ることに貢献した。ところが昨年、過去 20 年間経験したことのない高さ 3 メートルの波がこの地域を襲い、この防波堤が一部破壊されてしまった。それでも、堤防の後ろにある家屋は全部破壊から免れた一方で、堤防の無い隣村（ベドノ村）では、高波の直撃を受け、家屋 12 軒が倒壊した。このことから、住民はマングローブとともに防波堤の存在にとっても感謝してくれている。自然の脅威との戦いはこれからも続くが、一つの策に固執することなく今後も柔軟な対応を講じ、自然をそして住民を守っていきたい。

3. ウズベキスタン沙漠緑化プロジェクト

トヨタ自動車の助成を得て、令和 4 年度は、アラル海湖底の沙漠において計 20 ヘクタールの新規植林を実施した。加えて 11 月には沙漠の自然植生、過去の植栽地の調査も実施した。また、令和 5 年 3 月に外務省日本 NGO 連携無償資金協力の助成を受けた沙漠緑化に必要な機材の購入等のインフラ整備も含む、沙漠緑化と生計向上支援に関わる事業をスタートさせた（助成期間は 1 年間）。

調査の結果も踏まえ、今後、塩分耐性のある灌木林サクサウルだけでなく、薬草栽培で表層を覆う形での緑化も推進していく。湖底の沙漠化に伴う塩分を含んだ白い砂嵐に苦しむ周辺住民の病（心肺系の病気）に効果のある薬草も多く栽培していく計画だ。

最終的なゴールである、アラル海湖底沙漠全体の緑化の実現、そして、これにより動植物に溢れた新たな自然の構築、白い砂嵐の防止・低減と薬草栽培・普及を通じた周辺住民の健康被害の低減、そして持続可能な産業の創出といった、包括的なプロジェクトの方向性を見出した 1 年となった。

4. タイ ラノーンマングローブ植林プロジェクト

令和 4 年度も、コロナ禍が続いたが、それにもかかわらず、多くの企業・労組等によって支えられ、約 40 ヘクタールの新規植林面積を実施することができた。

ただ、特に同地では保全活動が重点的に実施され、成果が出た年となった。事業対象村では、各生産者グループが、タイ国政府が定めるコミュニティ企業促進法に基づく「コミュニティ企業」に登録された。これにより、政府機関を通じた広報やイベント出店といった販路が広がった。彼らを作る製品の品質向上や組織強化に対する公的機関からの協力が

得られやすくなり、自立発展性が高まった。加えて、政府公認のOTOP（One Tambon One Product:日本でいう一村一品運動）に製品の審査を申請し、6月下旬、マングローブ石けんや軟膏、マングローブ茶、マングローブ染めのシャツなど10品目が登録された。こうして、マングローブ域の自然資源を活用した産物の開発が進み、モデル販売を実施し好評を得ている。植林から始まった森づくり活動から、コミュニティ全体の能力強化、総合的な地域の発展へと進化し、環境保全と持続可能な地域開発の2つを結びつけた基盤を作り上げることができた。これらのコミュニティの生計向上支援を中心とした保全活動は、日本NGO連携無償資金協力による助成事業「ラノー州のマングローブ林再生を通じた社会的弱者層生計向上プロジェクト（2年目）」を通じて行われた。

<海外人材育成>

これまで、主にアジア太平洋地域において、農村地域の農業振興や環境保全活動のリーダーとなる人材の育成に取り組んできた本事業であるが、その取り組みには様々な形態がある。政府との良好な信頼関係から長期にわたり活動を続けているフィリピン・アブラ州での活動についてここでは紹介する。

（アブラ農林業研修センター）（フィリピン・ルソン島）

アブラ農林業研修センターでは、若者や農民、地元の女性たちが開発に最大限に貢献できるようにするため、6ヶ月間の若者（平均15名）を対象とした、持続可能な農業や食品加工、畜産業、工業、森林の管理、マナーや集団生活、日本語といった研修プログラムを実施している。

集中的に研修を受けた後、選ばれた数名の卒業生は、日本で技能実習生としてさらに研修を受ける。2022年4月から2023年3月にかけて、アブラ農林業研修センターから合計19名が技能実習生として日本に派遣された。若者を日本に派遣する最大の目的は、彼らを選んだ仕事において新しいスキルや技術を学ぶ機会を与えることである。実習生たちは、日本の文化、労働倫理、仕事に対するひたむきな姿勢に触れることで、フィリピンに戻ってからもそれを見習い、応用することができる。

また、地域社会の経済状況をさらに向上させるため、アブラ州ドロレス市とラガンギラン市からの100名の農民グループと60名の地元女性グループも支援している。アブラ大学(UA)、農務省(DA)、環境天然資源省(DENR)と連携し、農林業、接ぎ木、有機農業に関する研修を地元の農民グループに実施している。一方、女性グループには食品加工や洋裁の研修を実施している。この取り組みは、近い将来、彼女たちが小規模なビジネスを始める道を開くものである。これによって、女性たち、特に女性主導の世帯は、より良い、より多くの保育に手が届くようになり、財源へのアクセスが改善され、社会における経済的地位を向上させることができる。

<持続可能な産業の開発／促進活動>

持続可能な産業の育成は、生計向上が伴ってこそ成功する環境保全や開発と表裏一体のものである。いかに生活環境の改善が図られようとも食の供給を基礎とする生計維持の機能が途絶えては、社会インフラとしての環境改善の持続性は見込めない。多様化する現代においてはニーズもさまざまであり、生産者と支援者や消費者を結びつける役割としてのわれわれのようなNGOの存在は、お互いのニーズを把握している点において優位に働く。こうしたマッチングを助けることにより開発途上地域の人々に裨益する産業を生み出していくような動きが望まれている。本年度も以下のような取り組みが進められたので紹介する。

1. ネグロス養蚕普及プロジェクト（フィリピン）

前年度は新型コロナウイルス感染拡大が続き、農家への配蚕（3令稚蚕）や養蚕普及員に

よる巡回指導が思うように出来ず、さらに年末に発生した大型台風の襲来により 40 戸以上の養蚕農家の蚕室が全壊するなど甚大な被害が出たことで、その影響が本年度半ばまで続き、その対応に追われた。繭生産の要となる蚕室の復旧に対しては、日本で呼びかけた募金や現地 JICA の支援を受けて、6 月頃までには大半の農家が蚕を飼える状態に戻ることが出来た。しかし、長く続いたコロナ禍により、各農家の桑園の管理が十分に出来ず、その立て直しに時間を要したことから、本年度の繭生産は僅か 4t の実績となった。来年度に向けては桑園が整備されることにより、良質の繭生産が期待される。また西ネグロス州イサベル地区においては新たに 20 戸ほどの農家が養蚕を始める準備を行っており、養蚕農家増を受けて繭生産増に期待が寄せられる。

2. 伝統的生活様式を守って生活する共同体の生活基盤の整備と生活環境の改善、生計向上の支援事業（インドネシア）

令和 2 年度より日本 NGO 連携無償資金協力により開始した「伝統的生活様式を守って生活する共同体の生活基盤の整備と生活環境の改善、生計向上の支援事業」の 3 年次が、8 月より開始となった。本事業は、西ジャワ州スカブミ県の山岳部に居住する、スンダ族の伝統的な生活様式を守って生活する共同体を対象に、住民の生活環境の改善と生計向上を目指すもので、その住民 2,300 名が事業の対象となっている。

本年度は、前年度までに引き続きアグロフォレストリー、野菜栽培、畜産、廃棄物管理などを実施し、住民の生計向上に資する活動となった。アグロフォレストリーではライムや胡椒、コーヒーなどの換金作物が取れるようになり、野菜栽培では 8 割以上の住民が技術が身に着いたとアンケートに回答した。畜産では 200 頭支給した羊が繁殖の結果 262 頭まで増え、生計向上の重要な要素として認められ、廃棄物管理では有機ゴミからの堆肥生産、分別したペットボトル等からの収入も増加傾向となっている。

また、3 年次の主要な活動として 12 基の共用水場の整備を掲げており、年度内にほぼ建築作業を終えることができた。これにより衛生環境が向上し、村外からの観光客の受け入れなどにも寄与することが期待されている。

<緊急・復興支援>

・ミャンマー支援

2021 年 2 月のクーデターによりミャンマーの社会や経済活動は混乱し深刻な影響を受けたが、その影響は 2022 年度も続き、多くの人々は困難な状況が続いた。特に、オイスカが支援対象としている地域やその周辺では、治安状況の更なる悪化で、住んでいる地域を追われ難民となる人々も増加するなど、深刻な状況に置かれる人々も少なくなかった。

4 月から 6 月は治安状況の悪化により支援活動自体を中止せざるを得なかったが、その後、栄養失調や飢餓状態の人々などが増加する懸念から、前年に続き、特に困窮度が高い住民を対象とした緊急食料支援を 24 村 1,249 世帯対象に実施した。治安状況にも配慮しながら、主食の米を含む、油、卵、野菜などの食料を対象地域の村々まで運び、直接受益者に行き渡るように配布をした。食糧支援をした住民からは「治安状況が悪い中、今年も物価高などで厳しい生活が続いており、今回の支援は大変助かった」など、栄養改善への支援に対する感謝の言葉も聞かれた。

11 月に雨季が開け、乾季に入ると、昨年に続き主産業の農業再建のための支援希望が対象地域の人々から届いた。物価の高騰や労働者不足の影響も重なり、困難に直面している住民を支援するため、乾季の作付けに必要な肥料支援や、栄養改善を目的とした家庭菜園づくりなどの支援を 14 村 406 世帯対象に実施した。研修による技術指導と農業資材供与、そしてその後も取り組みが着実に実施されるように各村を訪問してフォローを実施した。現地は先行きが見えない中で不安な日々が続いているが、今後もスタッフは困窮している農村の人々と連帯し、可能な取り組みを探っていく。

<調査研究・専門家・指導員派遣>

ウズベキスタン・アラル海湖底の植栽地モニタリング

期間：2022年11月

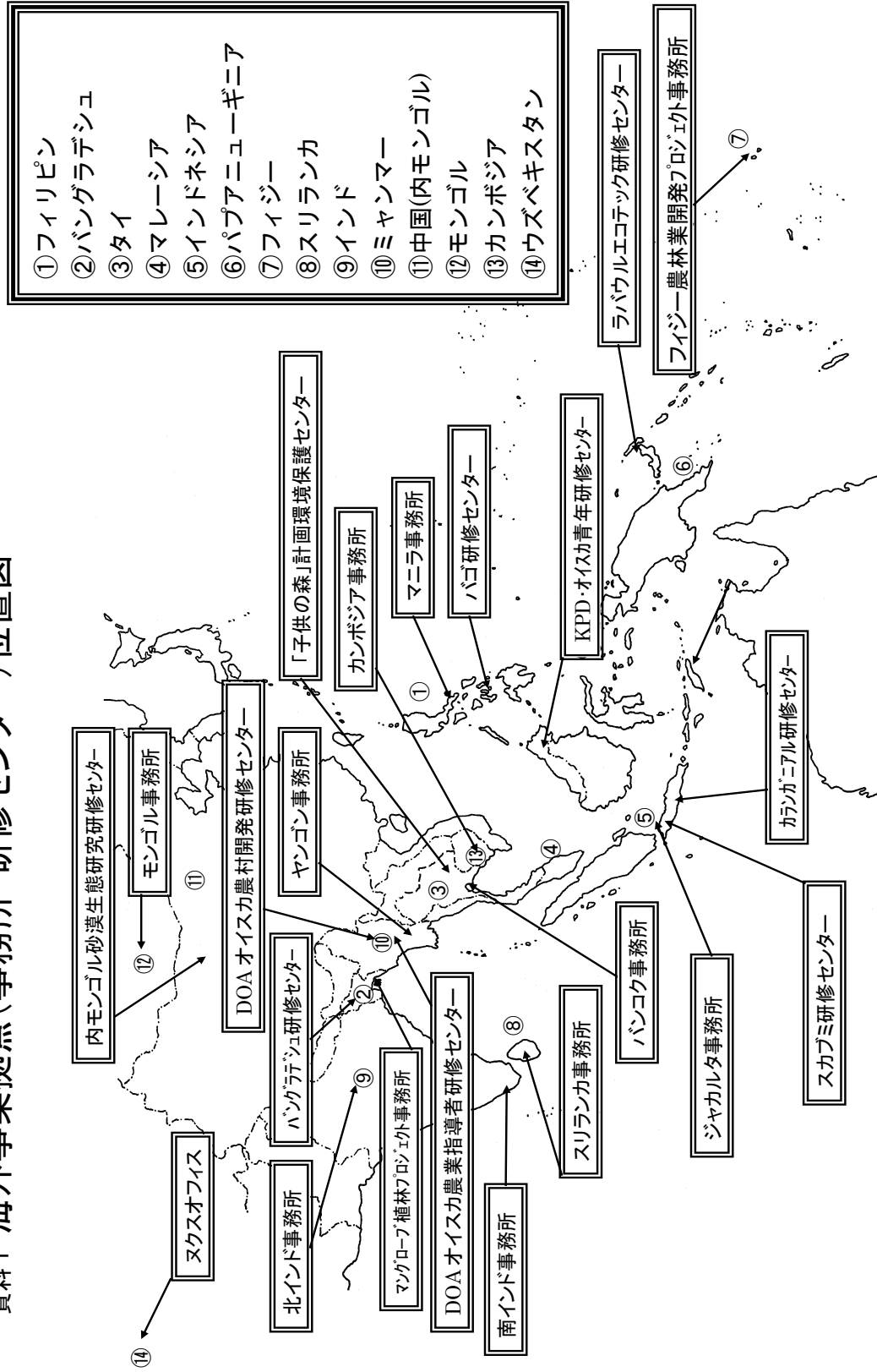
実施国：ウズベキスタン カラカルパクスタン

実施者：長宏行・富樫智・林久美子

2022年11月カラカルパクスタン農業大学の研究者とともにアラル海湖底の沙漠にある既存植栽地の生育調査を行った。対象地はサクサウル (*Haloxylon spp.*) 植栽後約1年半経過したサイトである。作業道路を挟んで、約10ヘクタールが植栽されたのであるが、道路の左側はほぼ全滅であった。一方右側は、活着率が6割を超えていた。表層の塩分が砂嵐で移動し、道を挟んで、左側は塩が多く溜まり植物の生存が不可能なレベルとなり、右側は逆に塩が飛び塩分濃度が低くなった可能性が考えられる。同じサイトであっても、少しの地形の違いにより、生存率に大きな差がでていたことから、土壌調査や風向き、高低差などのわずかな地形の違いなどを分析し、植栽箇所を選んでいく必要性が示唆された。

また、樹高1メートルの若いサクサウルの個体でも、その根が表層土壌に並行して4～5メートル這って伸びていることが観察された。わずかな降水機会を狙ってこの植物がなるべく広い範囲から多くの水分を吸収しようとしていることも確認できた。逆に言えば密植するならば、土壌水分の奪い合いが起きるため、湿潤な気候での植栽と違い、当然ながら植栽間隔は広めにとることが妥当であることも改めて確認できた。

資料 1 海外事業拠点(事務所・研修センター)位置図



資料2 海外駐在員派遣リスト

	氏名	担当業務
インドネシア		
1	木 附 文 化	運営管理
2	大 垣 直 哉	調整・渉外
3	加 納 達 也	運営管理
フィリピン		
4	渡 辺 重 美	運営管理
5	石 橋 幸 裕	運営管理
タイ		
6	春 日 智 実	運営管理
7	高 木 美 智 代	調整・渉外
パプアニューギニア		
8	荏 原 美 知 勝	農業技術指導・調整
フィジー		
9	ジ ョ ㇿ リ ン マ ト ウ ン ハ イ	調整・渉外
ウズベキスタン		
10	富 樫 智	運営管理

資料3 海外事業拠点別 現地スタッフ及び、受入研修生数

No	国名	センター・事務所	現地スタッフ	研修生
1	バングラデシュ	バングラデシュ研修センター	12	0
2		チッタゴン・マングローブ植林プロジェクト事務所	3	-
1	インド	南インド事務所	10	-
2		北インド事務所	3	-
1	インドネシア	スカブミ研修センター	38	79
2		カラングニアル研修センター	9	64
3		ジャカルタ事務所	2	-
1	マレーシア	KPD-オイスカ青年研修センター	23	54
1	モンゴル	オイスカモンゴル事務所	2	0
1	ミャンマー	ミャンマー農村開発研修センター	24	0
2		ミャンマー農業指導者研修センター	13	0
1	フィリピン	マニラ事務所	5	-
2		バゴ研修センター	16	21
3		ヌエバビスカヤ植林プロジェクト	2	-
4		パラワン研修センター	5	0
5		ダバオ研修センター	4	0
6		アブラ農林業研修センター	5	20
7		ヌエバエシハ研修センター	3	26
1	スリランカ	スリランカ事務所	6	-
1	タイ	北部タイ緑化プロジェクト(チェンライ)	4	-
2		マングローブ・プロジェクト(ラノー)	6	-
3		「子供の森」計画環境保護センター(スリン)	1	-
4		「子供の森」計画(コンケン)	1	-
5		バンコク事務所	4	-
1	カンボジア	カンボジア事務所	4	0
1	フィジー	フィジー農林業開発プロジェクト事務所	5	29
1	パプアニューギニア	ラバウル・エコテック研修センター	13	0
1	中華人民共和国	内モンゴル砂漠生態研究研修センター	2	0
1	ウズベキスタン	ヌクスオフィス(カラカルパクスタン農業大学内)	1	0
合計			225	293

*現地スタッフとは、法人の直接雇用ではなく個別プロジェクトのニーズに見合う臨時雇用者を現地採用しているスタッフ

2. 「子供の森」計画事業

1. 総括

2022年度前半は、まだ各活動地で新型コロナウイルスによる影響が残ったものの、後半は落ち着きを見せ、規制の緩和や解除が進む中で、「子供の森」計画（以下、CFP）でも制限を気にせず、子どもたちが再びのびのびと活動できる状況が戻ってきた。コロナ禍で参加を待機していた学校も多く、22年度には新たに62校が参加。環境保全においては、制限の緩和に伴って学校や地域における植林活動が勢いを増し、全体として植林実績も増加傾向にある一方、社会情勢の悪化や異常気象などにより、予定していた活動を十分に実施できない地域もあった。特にクーデター後の混乱が続くミャンマーや経済危機に陥ったスリランカでは、人々の暮らしが脅かされる中で、オイスカとしてもどのようにこの状況に向き合い、対応すべきか現地スタッフと話し合いを重ねる必要があった。そうした地域においても、厳しい状況でも最前線で踏ん張り、前を向く現場のスタッフの存在に支えられながら、手を挙げてくれた地域や学校の意味を尊重して小規模でも緑化を続けるとともに、家庭や学校における野菜づくりの支援を強化するなど、CFPらしいアプローチで子どもたちや地域の今に寄り添った支援を進めた。

コロナ禍が落ち着く一方で、ウクライナ情勢や世界経済の影響により、各国でインフレ率が上昇し、食料やエネルギーなど必需品の価格高騰が地域住民の生活に打撃を与えると共に、プロジェクトにも大きな影響を与えている。特に学校との調整や植林地のモニタリングに欠かせないガソリンの高騰が予算を圧迫しており、各国共通として頭の痛い課題となっている。また年々世界各地で自然災害が頻発するなかで、活動地でもその被害が深刻化している。人々の暮らしが脅かされると共に、植林地や学校も被害を受け、積み上げてきた成果も損なわれてしまうことも少なくない。何をしたわけでもないのに、そうした環境や社会の変化を最も受けやすいのが、弱い立場にある子どもたちだ。彼らがふるさとでこれからも安心して学び、暮らしていくためにも、「子供の森」計画の役割はますます高まっていると考える。

なお各国で活動が活発化する一方、子ども親善大使事業やボランティアツアーなどのオフラインでの国際交流事業については、まだ懸念材料が多く再開には至らなかった。そうした中でも遠く離れた現地の活動を身近に感じてもらえるよう、オンラインを活用した報告会やワークショップを企画・開催したほか、動画での発信にも注力した。なお支援者向けには、支援国ごとの活動レポートを作成したほか、さまざまな国での活動の様子を掲載したニューズレターやカレンダーなどを届け、CFP全体の取り組みに対する理解の促進を図った。こうした広報活動の結果、2022年度（2022年4月1日から2023年3月31日）の「子供の森」計画支援口数による支援（5,695口）や企業・団体・個人などからの寄附や募金など合わせた寄附金総額は46,236,106円となった。なお対象地については、現地のニーズや実行体制に基づき、バングラデシュ、カンボジア、フィジー、インド、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、モンゴル、フィリピン、パプアニューギニア、スリランカ、タイにおいて、重点的に事業を展開した。

2. 各プロジェクト実施成果

① 生態系を守り、持続可能な地域づくりを目指した森づくり

対面授業の再開が遅れていたフィリピンでも、2022年8月に約2年半ぶりに学校が再開するなど各地でコロナ禍による制限が解除され、CFP活動への障害もなくなっていった。

それまで人数を規制しながら行っていた植林活動も、各地で再び活発に動き出し、2022年度は16の国と地域における527の学校と地域で実施（マングローブ植樹を含む）。子どもたちを中心に35,500人以上が参加するなど、多くの参加者とともに緑化を進めることができた。子どもたちも学校に通えるようになり、管理にも積極的に関わってくれていることで、環境の厳しい場所においても苗木の生育率もよい。タイでは、乾燥地のスリンでも70%が生存しており、チェンライでは100%の生存率を得ることができた。

また、生態系を活用した防災・減災（ECO-DRR）の取り組みにも引き続き注力。フィジーでは、（公社）国土緑化推進機構・緑の募金の助成を受けながら、災害リスクの高い山間部での植林のほか、沿岸浸食が進む沿岸部においてマングローブとともに海岸林の植栽を進めるプロジェクトを展開。苗木づくりから地元の青年とともに取り組み、またヤシ殻やヤシのオガ屑を使って土壌の保水力を高めるなど、地元にあるものを活用しながら砂地の多い沿岸部においても苗木がきちんと活着し、生長するように工夫を行っている。こうして各地で防災の役割を果たせるような環境づくりを進める一方、古くに植林活動を行った学校では、植林地の管理が適切になされず、不健全な状態であったり、危険な状態になっている場所もでてきている。今後は、必要に応じた植え替えなども視野に入れつつ、健やかでしなやかな森づくりを目指して、各学校と連携して植林地の手入れに力を入れていきたい。

② 危機的状況にある生物多様性に対する取り組みを強化

2022年12月に開かれた国連生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）では、2030年までの国際目標を定めた新たな枠組みが採択。2030年までに生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せるための緊急の行動をとることがミッションとして掲げられるなど、生物多様性の保全に向けて社会全体で取り組みを加速させることが求められており、ユースの活動についても重要視されている。CFPでは、引き続き国連生物多様性条約事務局（SCBD）と連携し、5月22日の国際生物多様性の日を記念したグリーンウェイブを柱にして取り組みを推進。2022年度は、7つの国と地域において287の学校・地域でグリーンウェイブ活動が行われ、前年の倍以上となる合計11,992名が参加した。

植林活動の中でもできるだけ郷土樹種の植栽を推進し、ふるさとの自然の豊かさに対する子どもたちの理解を育むとともに、暮らしの基盤でもある生物多様性の危機的状況について伝え、その保全の必要性に対する理解を深める機会の創出にも努めている。今後もこうした活動を継続しつつ、COP15で定められた新しい枠組みに基づき、SCBDと基本協約の更新手続きを進め、生物多様性の保全・そして回復に向けた取り組みを加速させていきたい。

③ 自然と共生した暮らしに向けて行動する意識と力を育む

コロナ禍が落ち着き、対面授業が全面再開されて、子どもたちの姿が学校に戻る中で、環境セミナーに加え、学校を拠点とした農業実習やごみの分別指導など、体験型の環境教育プログラムもおおむね各地の学校で再開することができた。ハーブを使った石鹸づくりや山林火災対策など、地域の恵みを活用したプログラムや地域の課題に即したプログラムも取り入れている。また指導複数校の子どもたちを対象にした宿泊型のエコキャンプもインドネシアとフィリピン、マレーシアで再開。インドネシアのエコキャンプにおいては、近くの高校のエコクラブのメンバーがアシスタントとなり小中学生の活動をサポートするなど、ユースリーダーたちの協力の輪も広がっている。しかし、コロナ禍で長期にわたり対面学習の機会が制限され、家庭で過ごす時間が続いた地域においては、子どもたちの学力や集中力の低下が問題となっているだけでなく、ごみをばい捨てしたりと環境に対する行動や意識の低下も見受けられる。環境教育においても、子どもたちにとっては、相互にコミュニケー

ションをとりながら、体験の中で感じたことが何よりも大きな学びとなり、そして継続して実践する機会や場があることで、学びが行動となり習慣化していく。対面におけるコミュニケーションや継続して取り組むことの大切さを各現場で改めて実感するきっかけとなった。今後も子どもたちの関心を引き出しながら、自然を身近に思う感覚や環境に優しく持続可能な生活を送るために必要な知識を身につけられるような機会づくりに注力していく。

④ 経験を活かしたアプローチで地域の課題に対応

2021年2月のクーデター後、社会的な混乱が続くミャンマーでは、特に第一研修センターのあるエサジョ郡の情勢が改善せず、学校もほとんど機能しない状況が続いている。学校における活動が難しい中、家庭や地域における植樹を支援する取り組みを継続展開。困窮する住民の生活の一助にもなるようにと、11の村において果実がなるものや薬になるものなどを中心とした苗木を食料など生活必需品と共に配布した。ミャンマーにおけるもう一つの拠点である第二研修センターがあるピョーボエ郡では、比較的情勢が落ち着いているため、6つの学校で植林活動及び菜園での農業実習を行うことができた。同郡での学校菜園活動は初めてとなるが、困窮する家庭が増える中、エサジョ郡で展開してきたノウハウを活かし、家庭でも実践できるように化学肥料を用いず、土づくりを行い、身近なものを活用してたい肥をつくることから教えている。なおこうした緑化や菜園活動を後押しするため、雨水貯水設備を2つの学校に設置したほか、校内の環境整備を進めるため、ごみの焼却炉の設置も別の2校に行った。また苗木を自前で拠出できるように、第二研修センターにも雨水貯水設備と苗床を新たに設置。コストダウンを図ると共に、地域にあった苗木の育成に取り組むことで、今後地域の緑化活動の拠点となっていくことが期待される。

また深刻な経済危機に直面したスリランカでは、物価の高騰や、燃料や医療品など必需品の不足が住民の生活を圧迫している。2022年度初めの数か月は国全体が混乱を極めており、学校が閉鎖されたり、燃料もほとんど手に入らない時期が続いたため、活動を展開することが難しかった。その期間話し合いを重ね、22年度は野菜づくりの知識や技術を教えるホームガーデニングプログラムを強化することに決定。食料に困る人が増える中で、野菜づくりができる技術や知識を広げるとともに、身近な材料を使って、たい肥の作り方を教えたり、価格が高くなっている化学肥料や農薬を使わずに長く続けられる農業のやり方を伝えたりすることは、オイスカの理念にあった活動であるとの判断だった。クルネーガラ県、キャンディ県の6つの学校でこうした野菜づくりを実践指導し、栄養に関する説明なども行いながら、各校を担当するコーディネーターが巡回指導を続けた。参加者の関心も高く、収穫した野菜は保護者の協力を得て定期的に学校給食に出されるなど、子どもたちの栄養改善にも役立っている。学んだことを家庭で実践する子どもたちも増えているが、継続的に子どもたちや地域の人々が意欲を持って取り組めるように引き続きフォローしていく必要がある。

⑤ 国を超えた理解を育み、つながりを育む

日本の子どもたちと海外の子どもたちが、動物の立場になり共に環境問題について考える交流プログラム「せかい！動物かんきょう会議」を継続して実施。インドネシア、モンゴル、タイの子どもたちと山口県の子どもたちが、リアルタイムでそれぞれの地域の環境問題について共有し、国を超えた解決策について意見交換を行うとともに、交流を育んだ。

2023年1月28日 タイ・アユタヤ県ワットラム小学校×山口市放課後児童クラブ

2023年2月16日 インドネシア・スカブミ県プラスアルファルハン高校×桜が丘高校

2023年2月17日 モンゴル・オルホン県15番学校×宇部市立万倉小学校

2023年3月5日 地球会議（合同セッション）

また、2023年3月には、特定非営利活動法人LiTAとの共催で、スリランカより現地スタッフを招聘して広島県にて講演会を開催（オンラインとのハイブリット開催）。「経済危機のスリランカで～持続可能な未来を目指し、子どもたちと取り組む環境教育～」と題し、スリランカでのこれまでの取り組みや、経済危機下における環境教育（ホームガーデニングプログラム）について報告した。スタッフの熱のこもった発表に会場も惹きこまれ、「直接の

担当者の報告ということで説得力があった」「オイスカだからできる、オイスカの活動が持つ意味にとっても深く共感した」との感想が寄せられるなど、多くの共感を得ることができた。

3. 2022年度「子供の森」計画 国別植林実績

累計実績：37の国と地域の5,468校で実施

No.	活動実施国名	2022年度		1991年～ 累積		参加校数 総計	2022年 新規校数
		植林本数	植林面積 (ha)	累計本数	累計面積 (ha)		
1	バングラデシュ	550	0.34	91,438	72.43	238	2
2	中国 (内モンゴル)	50,000	30.00	287,910	96.60	18	1
3	カンボジア	1,800	2.50	16,290	21.65	70	7
4	フィジー	7,171	9.48	814,517	598.54	67	1
5	インド	6,990	2.79	1,782,959	1243.67	2,121	1
6	インドネシア	29,491	21.95	479,705	577.94	445	6
7	マレーシア	316	1.40	90,527	84.63	241	2
8	ミャンマー	1,372	0.55	43,724	19.87	89	0
9	フィリピン	10,943	2.90	2,970,710	1108.42	1,180	18
10	パプアニューギニア	405	1.54	83,805	55.18	89	1
11	スリランカ	868	0.69	517,352	433.09	361	3
12	タイ	35,290	13.74	684,694	447.36	233	4
	*その他の国・地域	4,360	3.85	175,240	131.91	316	16
合計		149,556	91.74	8,038,871	4891.29	5,468	62

※上記データは2023年3月末時点。

参加校数は、新規植林実績のある学校に加え「子供の森」計画に参加した学校すべての総計値

※ その他の国・地域：

アフガニスタン、アルゼンチン、アゼルバイジャン、ブラジル、エチオピア、ホンジュラス、香港、イスラエル、日本、ケニア、メキシコ、モンゴル、ネパール、パキスタン、パラオ、パレスチナ、パラグアイ、台湾、東ティモール、トンガ、UAE、アメリカ、ウルグアイ、ウズベキスタン、ベトナム



新規参加校での植林活動
(パプアニューギニア・聖テレジア小学校)



12 野菜の植え方を教えるコーディネーター
(スリランカ・クルナワ学校)

3. 人材育成事業

総括

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大により、海外からの研修生及び技能実習生の受入れは叶わなかったが、本年度は年初めより収束傾向が見られたことから、例年通りの受け入れとなった。一般研修事業では5つの研修科目を通じてウズベキスタンや東ティモールなど14の国と地域から44名の研修生受入れを実施した。

技能実習事業ではフィリピン、インドネシア、マレーシアを中心に5カ国から農業分野35名、工業分野64名、介護20名に新たにとび13名が加わり新規受入れ合計が132名、さらに継続している実習生194名を含めると本年度の受入れ技能実習生は総数326名であった。

各研修センター（中部日本、四国、西日本）では2年ぶりの一般研修受け入れとなり、以前同様、日々職員と研修生が寝食を共にしての活気に満ちた研修を実施することが出来た。

一方でセンターを拠点とする一般研修は昨今、人材育成事業の財政状況が厳しくなっていることから研修生の受入数も以前と比較して少なくなっている。そうした状況を受けて派遣国側による研修生の選考も年々厳しくなっており、来日してからの研修生の研修に向かう姿勢にも変化が見られ、座学や実習の場で積極的に取り組む姿勢が各所でみられた。また、研修センターにおける研修生は各支部会員や地元青少年、また地域住民らとの交流を通して民間レベルでの国際理解を高めていくという役割としても貢献しており、その成果は大きく発揮された。同時に多くの交流が行われたことによって、研修生自身の日本語能力向上にも繋がったと言える。

技能実習においては、受け入れの空白期間が1年にも及んだことから、各受け入れ企業・農家では本年度当初から積極的に受け入れを開始した。本年度は新たにとびが始まるなど受入れ人数もこれまで以上に増加した。技能実習生は入国後、約2ヶ月に渡る規則正しい研修センターでの生活を通じて日本語を中心とした日本の習慣や文化を修得できたことにより、各企業・農家に移動した後の彼らの成果は如何なく発揮された。

昨年度からは研修生と入所予定の研修センターとをリモートで繋ぎオンラインによる個別面談を行ってきているが、この取り組みは双方の状況を事前に知るうえで非常に有益であるとの評価から今後もさらに工夫を凝らして実施していきたいと考えている。

1) 一般研修事業

① 研修員受入状況（国別および研修科目別）

国 別	研修科目	バングラデシュ	カンボジア	フィジー	インド	インドネシア	マレーシア	メキシコ	モンゴル	ミャンマー	パプア・ニュー・ギニア	フィリピン	東ティモール	ウズベキスタン	チベット(インド)	合計
国際ボランティア				1	1											2
農業一般	2	1	3	2	2	2		2	3	1	2	2	1	1		24
家政						1	1									
農業指導										1						1
地域開発			3		1	4	2	3	1					1		15
合計	2	1	7	3	3	7	3	5	4	2	2	2	2	2	1	44

② 本年度研修員氏名一覧

No	氏名	国名	科目(委託先)	期間
中部日本研修センター(10名)				
1	Mr. Md. Abdur Rahman	バングラデシュ	農業一般	2022.6～2023.4
2	Ms. Miliakere Cirikiwai Tikoinasau	フィジー	国際協力ボランティア	2022.5～
3	Mr. Nikotimo Kina Droto	フィジー	農業一般	2022.5～
4	Mr. Moe Min Thu	ミャンマー	農業一般	2022.5～2023.4
5	Mr. Jerome Carlo De Guzman Suba	フィリピン	農業一般	2022.4～2023.4
6	Mr. Rahadul Hoque Babu	バングラデシュ	農業一般	2023.3～
7	Mr. Thomas Sonu	インド	国際協力ボランティア	2023.3～
8	Mr. Chirakkal Abhisek	インド	農業一般	2023.3～
9	Mr. Kayat Sean Yuji	フィリピン	農業一般	2023.3～
10	Mr. Kaikmata Benjamin Navona	パプアニューギニア	農業一般	2023.3～
四国研修センター(16名)				
11	Mr. Petero Maria Rerehoa	フィジー	地域開発	2022.4～2023.4
12	Ms. Latileta Tupou	フィジー	地域開発	2022.4～2023.4
13	Ms. Baiq Sanda Hafizah Sukmawati	インドネシア	地域開発	2022.4～2023.4
14	Ms. Patricia Zipilin	マレーシア	地域開発	2022.4～2023.4
15	Ms. Betsy Joseph	マレーシア	地域開発	2022.4～2023.3
16	Ms. Sarai Villanueva Tomasa	メキシコ	地域開発	2022.4～2023.4
17	Mr. Munkhzaya Chuluunbaatar	モンゴル	地域開発	2022.4～2023.3
18	Ms. Tsogtbayar Ariunselenge	モンゴル	地域開発	2022.4～2023.3
19	Ms. Sandra Santos Robles	メキシコ	家政研修	2022.4～2023.4
20	Mr. Natavaya Osea	フィジー	地域開発	2023.2～
21	Ms. Lopez Flores Maria Del Pilar	メキシコ	地域開発	2023.2～
22	Ms. Thidar Htay	ミャンマー	地域開発	2023.2～
23	Ms. Enkhbold Amintsetseg	モンゴル	地域開発	2023.2～
24	Mr. Jeffrydoh Mosito	マレーシア	地域開発	2023.2～
25	Ms. Fredericca Ayoh	マレーシア	地域開発	2023.2～
26	Mr. Akseytov Janbolat	ウズベキスタン	地域開発	2023.3～
西日本研修センター(19名)				
27	Mr. Kingsley Sidiuli	パプアニューギニア	農業指導 OB	2022.5～
28	Mr. Sitiveni William Tawake Naicori	フィジー	農業一般	2022.4～2023.4
29	Ms. Rizki Asyariah Ramadani	インドネシア	農業一般	2022.4～2023.3
30	Mr. Nurazmin bin Ali	マレーシア	農業一般	2022.5～2023.3
31	Mr. Erdenebileg Erkhbold	モンゴル	農業一般	2022.4～2023.3
32	Ms. Ni Ni Win	ミャンマー	農業一般	2022.5～2023.3
33	Mr. Noronha Leonito	東ティモール	農業一般	2022.4～2023.3

34	Mr. Timur Makhsetovish Buranbaev	ウズベキスタン	農業一般	2022.4～2022.8
35	Mr. Tokalau Josateki Naqovu	フィジー	農業一般	2023.2～
36	Ms. Tria Lusyana	インドネシア	農業一般	2023.2～
37	Ms. Kuruppath Drisya	インド	農業一般	2023.2～
38	Ms. Karma Namgyal Lhamo	チベット (インド)	農業一般	2023.2～
39	Mr. Em Nith	カンボジア	農業一般	2023.2～
40	Ms. Myo Thuzar	ミャンマー	農業一般	2023.2～
41	Mr. Boldbaatar Tegshjargal	モンゴル	農業一般	2023.2～
42	Mr. Eloress Jason Jausin	マレーシア	農業一般	2023.2～
43	Mr. Gusmao Amaral Agostinho	東ティモール	農業一般	2023.2～
関西研修センター(1名)				
44	Ms. Maxivelynn Elvia Binti Marosin	マレーシア	家政	2022.5～

2) 技能実習事業

① 農業技能

No	氏名	国名	委託先	期間
耕種農業(施設園芸) 2名				
1	Mr. Deel Bierron Bin Donny	フィリピン	株式会社 OFA	2023.3～2026.3
2	Mr. Calvin Madilis	フィリピン	株式会社 OFA	2023.3～2026.3
耕種農業(畑作・野菜) 54名				
3	Mr. Tesoro Tom James Isao	フィリピン	北日本菅与(株)	2018.5～2023.7
4	Mr. Alfaro Santy Jay Pilor	フィリピン	北日本菅与(株)	2018.5～2023.7
5	Mr. Imanuel Laupra	インドネシア	(有)さぬき新栄	2018.8～2023.12
6	Mr. Princena Christian Benosa	フィリピン	山本一守	2018.9～2023.12
7	Mr. Darwin Simanjuntak	インドネシア	竹内農場	2018.11～2023.12
8	Mr. Muhammad Isa Sayti	インドネシア	(有)さぬき新栄	2019.4～2022.4
9	Ms. Desi Milawati	インドネシア	(有)さぬき新栄	2019.4～2022.4
10	Ms. Dara Kartica Sembiring	インドネシア	(有)さぬき新栄	2019.4～2022.4
11	Mr. Ainur Rasyid	インドネシア	(株)木下	2019.4～2024.6
12	Mr. Beboso Geneil Aurea	フィリピン	農業生産法人アグリスポート南大東(株)	2019.7～2024.9
13	Mr. Cordero Joemar Sison	フィリピン	農業生産法人アグリスポート南大東(株)	2019.7～2024.9
14	Mr. Borres Elizier Dula	フィリピン	農業生産法人アグリスポート南大東(株)	2019.7～2024.9
15	Mr. Mina Jeffrey Macasiray	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2019.7～2024.9
16	Mr. Trube Divino Marcellana	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2019.7～2022.7
17	Mr. Rifqi Hanif	インドネシア	農業生産法人合同会社渡眞利農園	2019.9～2024.10
18	Mr. Gulam Alhattaq	インドネシア	農業生産法人合同会社渡眞利農園	2019.9～2022.8
19	Mr. Rizal Mustika	インドネシア	金城善明	2019.9～2022.8
20	Mr. Adi Suryanto	インドネシア	金城善明	2019.9～2022.8
21	Mr. Danar Ashipa Salsabil	インドネシア	(株)和伊耕産	2019.9～2022.8
22	Mr. Ballacillo Rowel Artienda	フィリピン	山本一守	2019.10～2022.9
23	Mr. Yoshiki	インドネシア	さんわ農夢(株)	2019.11～2022.11
24	Mr. Samsul Gay	インドネシア	さんわ農夢(株)	2019.11～2022.11
25	Mr. Caampued Julie Nunez	フィリピン	石川拓	2019.11～2023.1
26	Mr. Irsadul Ngibat	インドネシア	中村伸次	2019.12～2022.12
27	Mr. Uus Usrofil	インドネシア	(株)和伊耕産	2020.1～2022.5
28	Ms. Febri Rahmawati	インドネシア	(有)さぬき新栄	2020.3～2023.3

29	Ms. Susi Eriyani	インドネシア	㈱さぬき新栄	2020.3～2023.3
30	Mr. Seares Reymond Nino	フィリピン	北日本菅与(株)	2020.12～2022.12
31	Ms. Hana Oktaviana	インドネシア	㈱福井園芸	2020.12～2023.12
32	Mr. Paborada Noel Jr. Bulanon	フィリピン	金川均	2020.12～2022.12
33	Mr. Requiron Steniel Cabayao	フィリピン	浅沼 清	2020.12～2022.12
34	Mr. Tarrazona Jomaver Telebrico	フィリピン	大城 典一	2020.12～2023.12
35	Mr. Claridad Jhon Ray Relota	フィリピン	沖山 聖	2020.12～2023.12
36	Ms. Maryani	インドネシア	㈱福井園芸	2021.1～2024.1
37	Mr. Reyes Marlo Jose	フィリピン	石川拓	2022.3～2025.3
38	Mr. Vasquez Danny Jr. Taay	フィリピン	外間大地	2022.4～2023.1
39	Mr. Wardi	インドネシア	㈱木下	2022.4～2024.4
40	Mr. Mohd Fadzili Bin Rahman	マレーシア	㈱さぬき新栄	2022.4～2025.4
41	Mr. Cayley Josip	マレーシア	㈱さぬき新栄	2022.4～2025.4
42	Ms. Anne Thien	マレーシア	㈱さぬき新栄	2022.4～2025.4
43	Ms. Dilaila Donny	マレーシア	㈱さぬき新栄	2022.4～2025.4
44	Mr. Gaylan Rene Boy Membrano	フィリピン	農業生産法人有限会社グランドパオニア宮平	2022.4～2025.4
45	Mr. Gilboligaya Arnel Arriesgado	フィリピン	農業生産法人有限会社グランドパオニア宮平	2022.4～2025.4
46	Mr. Aquino Mark Anthony Adame	フィリピン	外間大地	2022.4～2025.4
47	Mr. Ballo Daryl Keitt Laureta	フィリピン	外間宏喜	2022.4～2025.4
48	Mr. Sylvania Dexter Carbonel	フィリピン	沖縄ファーム	2022.5～2024.5
49	Mr. Mahmud Ipaenin	インドネシア	中村伸次	2022.5～2025.5
50	Mr. Sodikin	インドネシア	中村伸次	2022.5～2025.5
51	Mr. Akbar Robi Pradana	インドネシア	農業生産法人合同会社渡真利農園	2022.5～2025.5
52	Mr. Agri Alvredo Pelealu	インドネシア	石川拓	2022.8～2022.9
53	Mr. Neal Keneddy Henry	マレーシア	さんわ農夢(株)	2022.9～2025.9
54	Mr. Jack Jokhamis Mangki	マレーシア	さんわ農夢(株)	2022.9～2025.9
55	Mr. Doculan Meljun Viernes	フィリピン	山本一守	2022.10～2025.10
56	Mr. Mata Jaymar Arsenio	フィリピン	農業生産法人アグリサポート南大東(株)	2022.12～2024.12
耕種農業(果樹) 4名				
57	Mr. Heri	インドネシア	小豆島ヘルシーラント(株)	2018.9～2024.2
58	Mr. Muhamad Miladi Aminyoga	インドネシア	小豆島ヘルシーラント(株)	2018.9～2024.2
59	Mr. Luong Van Kiep	ベトナム	小豆島ヘルシーラント(株)	2020.11～2022.11
60	Ms. Nguyen Thi Ngoc Mao	ベトナム	小豆島ヘルシーラント(株)	2020.11～2022.11
畜産農業(養鶏) 5名				
61	Mr. Ursula Carlo Castaneda	フィリピン	㈱カクイタマコ	2019.3～2023.2
62	Mr. Telebrico Gelo Barcelo	フィリピン	㈱カクイタマコ	2020.2～2023.3
63	Mr. Susarno Jhobet Los Banes	フィリピン	㈱カクイタマコ	2020.10～2022.10
64	Mr. Tanacio Frodan Ablaza	フィリピン	㈱カクイタマコ	2020.10～2023.3
65	Mr. Astrande Arman Tamo	フィリピン	㈱カクイタマコ	2020.12～2023.3
畜産農業(養豚) 36名				
66	Mr. Bendiola Jamiel Carlos	フィリピン	㈱菅与	2017.6～2022.8
67	Mr. Valeros Dexel Pilarta	フィリピン	㈱菅与	2017.6～2022.8
68	Mr. Brub Dexter Nartatez	フィリピン	㈱北海道日高牧場	2017.9～2022.10
69	Mr. Aquino Ariel Vasquez	フィリピン	㈱日向養豚	2018.5～2023.7
70	Mr. Balicao Ernie Rodavia	フィリピン	㈱菅与	2018.8～2023.10
71	Mr. Gavanés Januaris Sotelo	フィリピン	㈱北海道日高牧場	2018.9～2023.10
72	Mr. Barcena Gerri Rejoso	フィリピン	㈱北海道日高牧場	2018.9～2023.10
73	Mr. Khun Maung Shan	ミャンマー	トヨタファーム	2018.12～2022.12
74	Mr. Myo Min Than	ミャンマー	トヨタファーム	2018.12～2022.8
75	Mr. Claro Daryll Baruela	フィリピン	㈱菅与	2019.6～2022.6
76	Mr. Guinaban Ruben Gayban	フィリピン	㈱菅与	2019.6～2024.7

77	Mr. Bob Romel Eduardo	フィリピン	㈱菅与	2019.6～2024.7
78	Mr. Dion Kevin Lloyd Gallardo	フィリピン	社会福祉法人みんなの輪	2019.8～2024.10
79	Mr. Ayco Roland Bersalona	フィリピン	社会福祉法人みんなの輪	2019.8～2024.10
80	Mr. Flores Ronnel Cortez	フィリピン	㈱菅与	2019.8～2024.10
81	Mr. Baldemor Racie Jay Alejandro	フィリピン	(有)吉田畜産	2019.9～2022.8
82	Mr. Dondonan Salvador Jr. Banaga	フィリピン	㈱北海道日高牧場	2020.1～2023.1
83	Mr. Barcena Jhonford Lapena	フィリピン	㈱北海道日高牧場	2020.1～2023.1
84	Mr. Soe Paing	ミャンマー	トヨタファーム	2020.2～2023.2
85	Mr. Aung Than Lin	ミャンマー	トヨタファーム	2020.2～2022.4
86	Mr. Trinidad John Patrick Algarne	フィリピン	㈱北海道日高牧場	2020.12～2022.12
87	Mr. Barreyro Adrian Hunter Millamina	フィリピン	(有)みずの	2022.3～2025.3
88	Mr. Barreras Raul Jr. Ballesta	フィリピン	(有)みずの	2022.3～2025.3
89	Mr. Manso Kim Julius Buagas	フィリピン	㈱菅与	2022.3～2025.3
90	Mr. Delos Santos Dante Jimenez	フィリピン	㈱菅与	2022.3～2025.3
91	Mr. Bob Roel Eduardo	フィリピン	㈱菅与	2022.3～2025.3
92	Mr. Ardaniel Patrick Jay Valdez	フィリピン	㈱菅与	2022.3～2024.3
93	Mr. Manahan Roberto Bartolome	フィリピン	(有)日向養豚	2022.3～2024.3
94	Mr. Magahis Rentz Raniel Cuervo	フィリピン	(有)吉田畜産	2022.4～2025.4
95	Mr. Oriasel Arnold Palad	フィリピン	(有)吉田畜産	2022.4～2025.4
96	Mr. Ying Hkaw	ミャンマー	トヨタファーム	2022.5～2025.5
97	Mr. Linn Htet Aung	ミャンマー	トヨタファーム	2022.5～2025.5
98	Mr. Villastiqui Renand	フィリピン	(有)久保畜産	2022.8～2025.8
99	Mr. Favila Alexis Plurad	フィリピン	(有)久保畜産	2022.8～2025.8
100	Mr. Sylvester Lewis	マレーシア	トヨタファーム	2022.11～2024.11
101	Mr. Zayar Soe	ミャンマー	トヨタファーム	2022.11～2024.11
畜産農業(酪農) 9名				
102	Ms. Pesa Angelee Vargas	フィリピン	㈱MOO MOO	2019.7～2022.7
103	Ms. Pascual Mariel Hipolito	フィリピン	㈱MOO MOO	2019.7～2022.7
104	Mr. Barbero Ferick Piscien	フィリピン	岡栄治	2020.1～2022.6
105	Ms. D Susette Semuil	マレーシア	(有)小池牧場	2020.11～2023.11
106	Mr. Lahagan Lee Ben Gumulom	フィリピン	岡栄治	2022.3～2025.3
107	Mr. Ali Sodikin	インドネシア	(有)アイ・アイ・ティ	2022.5～2025.5
108	Ms. Sofia Nurul Mahmudah	インドネシア	(有)アイ・アイ・ティ	2022.5～2025.5
109	Ms. Mia Amelia	インドネシア	(有)アイ・アイ・ティ	2022.5～2022.10
110	Ms. Briosos Andrea Domingo	フィリピン	㈱三好牧場	2022.12～2025.12

【実習科目及び国別研修生数】

実習科目 \ 国別	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	ベトナム	合計
耕種農業（施設園芸）		2				2
耕種農業（畑作・野菜）	24	6		24		54
耕種農業（果樹）	2				2	4
畜産農業（養鶏）				5		5
畜産農業（養豚）		1	7	28		36
畜産農業（酪農）	3	1		5		9
合計	29	10	7	62	2	110

② 工業及び介護技能

No	氏名	国名	委託先名	期間
機械保全 5名				
1	Mr. Marmeto Neil James Barbosa	フィリピン	豊田汽缶(株)	2019.3～2024.5
2	Mr. Singuelas Eric John Fortunato	フィリピン	豊田汽缶(株)	2019.3～2024.5
3	Mr. Alcoriza Daniel Jonas Nepomuceno	フィリピン	豊田汽缶(株)	2022.4～2025.4
4	Mr. Muhammad Rasydan Bin Roslan	マレーシア	日東精工(株)	2023.3～2026.3
5	Mr. Muhammad Na Im Bin Mohd Yasim	マレーシア	日東精工(株)	2023.3～2026.3
建設機械施工 17名				
6	Mr. Pramudya Eka Syachriar	インドネシア	(有)秋重建設	2019.7～2023.7
7	Mr. Pendik Jatmiko	インドネシア	(有)秋重建設	2019.7～2023.7
8	Mr. Isam Fauzi	インドネシア	(有)中野建設	2019.7～2023.7
9	Mr. Sadi	インドネシア	(有)中野建設	2019.7～2022.9
10	Mr. Mohamad Helmy Bin Masran	マレーシア	(株)フィールドサービス	2019.10～2022.10
11	Mr. Sheikh Denial Bin Sh Ishak	マレーシア	(株)フィールドサービス	2019.10～2022.10
12	Mr. Muhammad Annuar Bin Mohd Sapuan	マレーシア	(株)フィールドサービス	2019.10～2022.10
13	Mr. Mohamad Faizal Azlizam Bin Abdul Talib	マレーシア	ヤスキ建設(株)	2019.12～2022.4
14	Mr. Muhammad Amirul Hakim Bin Isha	マレーシア	ヤスキ建設(株)	2020.2～2023.1
15	Mr. Angga Muria Pratama	インドネシア	ヤスキ建設(株)	2022.4～2025.4
16	Mr. Muhammad Faiz Fakhri Bin Zahari	マレーシア	中村建設(株)	2022.4～2025.4
17	Mr. Zul Hazmi Bin Nuri	マレーシア	(株)フィールドサービス	2022.5～2022.9
18	Mr. Darsono	インドネシア	(有)中野建設	2022.5～2025.5
19	Mr. Rudi Hartono	インドネシア	(有)秋重建設	2022.5～2025.5
20	Mr. Muhammad Haziqurhakim Bin Md Sudarman	マレーシア	(株)フィールドサービス	2022.5～2025.5
21	Mr. Aidil Syaffuan Bin Sulaiman	マレーシア	中村建設(株)	2022.7～2024.7
22	Mr. Eksan Saputra	インドネシア	ヤスキ建設(株)	2023.1～2026.1
塗装 10名				
23	Mr. Trube Joemar Ocumen	フィリピン	(株)鈴木サービス工場	2016.9～2022.5
24	Mr. Muhammad Redzuan Bin Burhan	マレーシア	(株)ヤギサリ自動車販売	2017.4～2023.1
25	Mr. Tesoro Keith Angelu Averro	フィリピン	(株)山陰アジス	2017.9～2023.3
26	Mr. Luna Benjie Moring	フィリピン	(株)浜名ワークス	2019.4～2024.5

27	Mr. Flores Angelo Abit	フィリピン	(株)浜名ワークス	2019.4～2024.5
28	Mr. Ocumen Michael Palara	フィリピン	(株)鈴木サービス工場	2019.7～2024.9
29	Mr. Garcia Francis Dale Batadlan	フィリピン	(株)ヤギヤ自動車販売	2022.4～2025.4
30	Mr. Balbinta Kent Cristian Senador	フィリピン	(株)ヤギヤ自動車販売	2022.4～2025.4
31	Mr. De Guzman Bernabe Jr Botanes	フィリピン	(株)鈴木サービス工場	2022.12～2025.12
32	Mr. Valera Ryan Billedo	フィリピン	(株)鈴木サービス工場	2022.12～2025.12
冷凍空気調和機器施工 6名				
33	Mr. Nik Muhammad Fauzan Naim Bin Nor Azan	マレーシア	(株)掛川空調サービス	2019.9～2022.9
34	Mr. Muhammad Nazimuddin Bin Md Nazir	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2020.11～2023.11
35	Mr. Muhammad Amirul Idham Bin Abd Latif	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2020.11～2023.11
36	Mr. Mohamad Syazni Mizan	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2022.5～2025.5
37	Mr. Muhammad Affzan Bin Abdul Halim	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2022.5～2022.7
38	Mr. Mohd Afifi Bin Md Jamil	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2022.11～2024.11
溶接 9名				
39	Mr. Bermudez Reymund Cuerdo	フィリピン	(株)マイテック	2018.1～2023.4
40	Mr. Lozada Jake Bacuna	フィリピン	(株)マイテック	2018.8～2023.10
41	Mr. Samia Arbnel Aguelera	フィリピン	(株)浜名ワークス	2019.4～2024.5
42	Mr. Clemente Ian Jayo Noceja	フィリピン	(株)浜名ワークス	2019.4～2024.5
43	Mr. Librando Rey Alde	フィリピン	(株)マイテック	2019.11～2025.1
44	Mr. Menor Rudner Laurente	フィリピン	(株)マイテック	2019.11～2025.2
45	Mr. Dacumos Reychon Villegas	フィリピン	(株)マイテック	2020.12～2022.12
46	Mr. Fernandez Aljun Java	フィリピン	(株)ジエイテクノス	2022.3～2025.3
47	Mr. Salbibia Johnnel Pabale	フィリピン	(株)ジエイテクノス	2022.3～2025.3
鉄筋施工 21名				
48	Mr. Callena Nomer Cacho	フィリピン	(株)セブレコン	2016.10～2022.12
49	Mr. Domingo Samuel Jr Tadeo	フィリピン	(株)セブレコン	2016.10～2022.12
50	Mr. Balbuena Allain Joyle Andia	フィリピン	(株)セブレコン	2016.12～2022.4
51	Mr. Bringas Michael Senrick Barila	フィリピン	(株)セブレコン	2016.12～2022.4
52	Mr. Entero Jayson Molina	フィリピン	(有)明星工業	2017.10～2023.4
53	Mr. Santiago Reynel Bio	フィリピン	(有)明星工業	2017.10～2023.1
54	Mr. Barcena Darren Borja	フィリピン	(株)セブレコン	2017.12～2023.4
55	Mr. Bodona Diomar Rayan Rafael	フィリピン	(株)セブレコン	2017.12～2023.4
56	Mr. Mangma Reymark Walohan	フィリピン	(株)セブレコン	2017.12～2023.4
57	Mr. Talingdan Jerwin Baisa	フィリピン	(株)セブレコン	2019.1～2024.4
58	Mr. Babida Jimar Berona	フィリピン	(株)セブレコン	2019.1～2024.4
59	Mr. Garcia Dickson Silvania	フィリピン	(株)セブレコン	2019.1～2024.4
60	Mr. Bacarisa Jeffrey Iverson Beng-Ad	フィリピン	(有)明星工業	2019.11～2022.11
61	Mr. Garcia Jhondel Garcia	フィリピン	(有)明星工業	2019.11～2022.11
62	Mr. Fernandez Florencio Jr. Jamaybay	フィリピン	(有)明星工業	2019.11～2022.10
63	Mr. Benigay Bryan Pioquinto	フィリピン	(株)セブレコン	2022.3～2025.3
64	Mr. Quirogo Jackson Lanutan	フィリピン	(株)セブレコン	2022.3～2025.3
65	Mr. Ursula Ralph Anthony Caseria	フィリピン	(株)セブレコン	2022.3～2025.3
66	Mr. Acosta Neo Daguno	フィリピン	(株)セブレコン	2022.12～2025.12
67	Mr. Onias Ronel Tilar	フィリピン	(株)セブレコン	2022.12～2025.12
68	Mr. Salcedo Andy Basilio	フィリピン	(株)セブレコン	2022.12～2025.12
配管 2名				
69	Mr. Muhammad Asyraaf Hamizan Bin Ahmad Zawawi	マレーシア	(有)フジ設備	2020.11～2023.11
70	Mr. Wan Mohammad Imran Fahmi Bin Wan Nor Irman	マレーシア	(有)フジ設備	2020.11～2023.11
鋳造 3名				
71	Mr. Gonzales Alvin Abrigo	フィリピン	白龍産業(株)	2019.10～2022.10
72	Mr. Evangelista Dexter Ortalla	フィリピン	白龍産業(株)	2019.10～2022.9
73	Mr. Cerezo Reden Macasaet	フィリピン	白龍産業(株)	2019.10～2022.9

型枠施工 4名				
74	Mr. Muhammad Arieff Aizuddin Bin Mahrol	マレーシア	三登建設(株)	2019.9～2022.9
75	Mr. Muhammad Nur Aiman Bin Mohd Sani	マレーシア	三登建設(株)	2022.4～2025.4
76	Mr. Mohd Firdaus Safwan Bin Musinin	マレーシア	三登建設(株)	2022.7～2024.7
77	Mr. Muhammad Zamri Bin Aziz	マレーシア	三登建設(株)	2022.11～2025.11
建具製作 16名				
78	Mr. Arto Deniyance Botau	インドネシア	(株)オークマ	2017.10～2022.12
79	Mr. Lathif Aminudin	インドネシア	(株)オークマ	2017.10～2022.12
80	Mr. Wahid Husen Toyo	インドネシア	(株)オークマ	2017.10～2022.12
81	Mr. Hasan Mukadar	インドネシア	(株)オークマ	2017.10～2022.12
82	Mr. Angriawan Deny Alfiantoro	インドネシア	(株)オークマ	2019.3～2024.5
83	Mr. Fahrul	インドネシア	(株)オークマ	2019.3～2024.5
84	Mr. Lewi Gulid Sambonu	インドネシア	(株)オークマ	2019.3～2024.5
85	Mr. Muhammad Khaidir Muhammad Rasyid	インドネシア	(株)オークマ	2019.3～2024.5
86	Mr. Ahmad Fatoni	インドネシア	(株)オークマ	2022.5～2025.5
87	Mr. Anton	インドネシア	(株)オークマ	2022.5～2025.5
88	Mr. Yoga Wahyu Putra	インドネシア	(株)オークマ	2022.5～2025.5
89	Mr. Maulana Ariel Syaputra	インドネシア	(株)オークマ	2022.5～2025.5
90	Mr. Moch Salam Azidan	インドネシア	(株)オークマ	2022.11～2025.11
91	Mr. Nursiddiq Widana Al Faruq	インドネシア	(株)オークマ	2022.11～2025.11
92	Mr. Hamzah Nurzaman	インドネシア	(株)オークマ	2022.11～2025.11
93	Mr. Sudianto	インドネシア	(株)オークマ	2022.11～2025.11
自動車整備 33名				
94	Mr. Muhammad Anwar Bin Abd Halim	マレーシア	滋賀タ イツ販売(株)	2018.4～2022.7
95	Mr. Mohd Hafizi Bin Che Mohd Noor	マレーシア	愛知タ イツ(株)	2019.5～2022.5
96	Mr. Muhammad Farihin Bin Sazali	マレーシア	愛知タ イツ(株)	2019.5～2022.5
97	Mr. Sotto Alexander Arquio	フィリピン	(株)タイン重機サービス	2019.9～2023.4
98	Mr. Fernandez Glizaldren Nograles	フィリピン	(株)タイン重機サービス	2019.9～2023.4
99	Mr. Mohamad Ariff Bin Mohamed Roseli	マレーシア	埼玉タ イツ(株)	2020.1～2023.1
100	Mr. Wan Muhammad Izzat Arshad Bin Zakariah	マレーシア	埼玉タ イツ(株)	2020.1～2023.1
101	Mr. Ahmad Syakir Fahmi Bin Mohd Zaki	マレーシア	滋賀タ イツ販売(株)	2020.1～2025.3
102	Mr. Mohd Mazri Bin Mohd Khir Johari	マレーシア	滋賀タ イツ販売(株)	2020.1～2025.3
103	Mr. Muhammad Hakimi Bin Kamardin	マレーシア	滋賀タ イツ販売(株)	2020.1～2025.3
104	Mr. Syazwan Asyraf Bin Sharip	マレーシア	滋賀タ イツ販売(株)	2020.1～2023.1
105	Mr. Muhammad Zaini Bin Hashim	マレーシア	(有)ワイルドゲース	2020.2～2023.1
106	Mr. Mohamad Farhan Bin Nasarudin	マレーシア	秋田タ イツ販売(株)	2020.11～2023.11
107	Mr. Muhammad Fazelie Bin Namberom	マレーシア	秋田タ イツ販売(株)	2020.11～2023.11
108	Mr. Andrada Jeff Batolina	フィリピン	(株)タイン重機サービス	2022.4～2025.4
109	Mr. Tolentino Ruel Jr. Benigay	フィリピン	(株)タイン重機サービス	2022.4～2025.4
110	Mr. Muhamad Sazali Bin Salimin	マレーシア	愛知タ イツ(株)	2022.4～2025.4
111	Mr. Muhammad Sharir Bin Muhammad Azim	マレーシア	愛知タ イツ(株)	2022.4～2025.4
112	Mr. Muhammad Zulkifli Bin Adnan	マレーシア	浅丘自動車整備(株)	2022.4～2025.4
113	Mr. Muhammad Ariff Danish Bin Muhammad Afandi	マレーシア	滋賀タ イツ販売(株)	2022.4～2025.4
114	Mr. Adam Syahrin Bin Nordin	マレーシア	滋賀タ イツ販売(株)	2022.4～2025.4
115	Mr. Muhammad Ariff Bin Rosli	マレーシア	尾道タ イツ販売(株)	2022.4～2025.4
116	Mr. Muhammad Solehin Bin Ahmad Zakir	マレーシア	尾道タ イツ販売(株)	2022.4～2025.4
117	Mr. Radin Muhammad Asyraf Bin Radin Mohd Zulkifli	マレーシア	(有)ワイルドゲース	2022.5～2025.5
118	Mr. Pesquera Christian Dioso	フィリピン	(有)ワイルドゲース	2022.7～2025.7
119	Mr. Lim Sheng Shi	マレーシア	(株)関東マツダ	2022.8～2025.8
120	Mr. Mohammad Ashraf Bin Mohammad Wajidi	マレーシア	(株)関東マツダ	2022.8～2025.8
121	Mr. Ilias Illyasa Bin Mohd Isa	マレーシア	(株)関東マツダ	2022.8～2025.8
122	Mr. Quintos Cristopher Valera	フィリピン	(株)山陰マツダ	2022.10～2025.10

123	Mr. Muhammad Nafis Bin Abdul Aziz	マレーシア	(有)ワイルドゲース	2022.12～2024.12
124	Mr. Ahmad Imran Bin Ibrahim	マレーシア	愛知ダ [®] イハツ(株)	2023.1～2026.1
125	Mr. Donnathaniel Jules	マレーシア	愛知ダ [®] イハツ(株)	2023.1～2026.1
126	Mr. Ahmad Khushairi Bin Zainuddin	マレーシア	滋賀ダ [®] イハツ販売(株)	2023.2～2023.3
工業包装 16名				
127	Ms. Factor Maria Divina Rano	フィリピン	ネクスラッピ [®] イ(株)	2018.9～2024.6
128	Ms. Tuanquin Marydel Dexie Pilor	フィリピン	ネクスラッピ [®] イ(株)	2018.9～2024.6
129	Ms. Barreyro Hermie Lumaog	フィリピン	ネクスラッピ [®] イ(株)	2020.1～2023.1
130	Ms. Respicio Kathleen Mae Arias	フィリピン	ネクスラッピ [®] イ(株)	2020.1～2023.1
131	Ms. Batalon Amelia Bo	フィリピン	ネクスラッピ [®] イ(株)	2020.1～2025.3
132	Ms. Vicente Milagros Gandeza	フィリピン	ネクスラッピ [®] イ(株)	2020.1～2025.3
133	Ms. Pajarillo Brenda Eugenio	フィリピン	ネクスラッピ [®] イ(株)	2020.1～2025.4
134	Ms. Banez Jenniefer Teneza	フィリピン	ネクスラッピ [®] イ(株)	2020.1～2025.4
135	Ms. Blaza Elizabeth Benauro	フィリピン	ネクスラッピ [®] イ(株)	2020.1～2025.5
136	Ms. Besas Maria Jessica Testado	フィリピン	ネクスラッピ [®] イ(株)	2020.1～2025.5
137	Ms. Daowan Edlyn Bernadette Edwin	フィリピン	ネクスラッピ [®] イ(株)	2022.12～2025.12
138	Ms. Millare Laira Fei Laureta	フィリピン	ネクスラッピ [®] イ(株)	2022.12～2025.12
139	Ms. Barbon Cherrylaine Alagao	フィリピン	ネクスラッピ [®] イ(株)	2022.12～2025.12
140	Ms. Borong Jessa Mae Bisquera	フィリピン	ネクスラッピ [®] イ(株)	2022.12～2025.12
141	Mr. Elpa Mark Bernos	フィリピン	(株)万年商店	2023.2～2026.2
142	Mr. Anical Dario Alunday	フィリピン	(株)万年商店	2023.2～2026.2
射出成型 3名				
143	Mr. Arquion Allen Kris Fernandez	フィリピン	工業化成(株)鈴鹿工場	2019.2～2024.4
144	Mr. Magsanay Mark Anthony Marabe	フィリピン	工業化成(株)鈴鹿工場	2019.2～2024.4
145	Mr. Revilla John Carlo Garganta	フィリピン	工業化成(株)鈴鹿工場	2019.2～2024.4
鉄工 9名				
146	Mr. Alif Dityas Pangestu	インドネシア	(株)鶴田工業	2020.3～2023.3
147	Mr. Abdul Rajak Ipaenin	インドネシア	(株)鶴田工業	2020.3～2023.3
148	Mr. Alfin Musthofa	インドネシア	(株)鶴田工業	2022.5～2025.5
149	Mr. Burhanudin Rahman	インドネシア	(株)鶴田工業	2022.5～2025.5
150	Mr. Rahardi Firman Halim	インドネシア	九州住宅工業(株)	2022.5～2025.5
151	Mr. As Ari	インドネシア	九州住宅工業(株)	2022.5～2025.5
152	Mr. Ahmad Toha	インドネシア	九州住宅工業(株)	2022.5～2025.5
153	Mr. Emul Mulyana	インドネシア	(株)鶴田工業	2022.11～2025.11
154	Mr. Mahatma Damar Jati Supajar	インドネシア	(株)鶴田工業	2022.11～2025.11
防水施工 1名				
155	Mr. Paat Junel Babida	フィリピン	(株)アルファ技研	2020.2～2023.2
牛豚食肉処理加工業 2名				
156	Ms. Sibuyan Easter Cindy Dizon	フィリピン	中王食肉(株)	2019.10～2023.2
157	Ms. Francisco Julie Ann Penafiel	フィリピン	中王食肉(株)	2019.10～2023.2
介護 44名				
158	Ms. Suarnaba Kellie Marie Alojado	フィリピン	社会福祉法人 愛光園	2019.12～2022.12
159	Mr. Paredes Ranju Anjao	フィリピン	社会福祉法人 愛光園	2019.12～2022.12
160	Ms. Aye Myat Mon	ミャンマー	(株)やさしい手	2019.12～2022.12
161	Ms. Hnin Hnin Aung	ミャンマー	(株)やさしい手	2019.12～2022.12
162	Ms. Naw May Tar Blute Htoo	ミャンマー	(株)やさしい手	2019.12～2022.12
163	Ms. Htet Yi Win	ミャンマー	(株)やさしい手	2019.12～2022.12
164	Ms. Thet Htar Swe	ミャンマー	(株)やさしい手	2019.12～2022.12
165	Ms. Olvinada Aubrey Belarmino	フィリピン	医療法人社団湖仁会	2020.1～2023.1
166	Ms. Sabolbora Erika Espanueva	フィリピン	医療法人社団実幸会	2020.1～2023.1
167	Ms. Garcia Rho Ann Toding	フィリピン	医療法人社団実幸会	2020.1～2023.1
168	Ms. Ocampo Dorathy Mesicula	フィリピン	生活介護サ [®] ビス(株)	2020.1～2023.1
169	Ms. Guzman Jenny Denosta	フィリピン	生活介護サ [®] ビス(株)	2020.1～2023.1
170	Ms. Aquilesca Erica Medel	フィリピン	生活介護サ [®] ビス(株)	2020.1～2023.1
171	Ms. Balonzo Paula Jo Nunez	フィリピン	生活介護サ [®] ビス(株)	2020.1～2023.1

172	Ms. Daulong Frances Aubrey Lupo	フィリピン	生活介護サービス㈱	2020.1～2023.1
173	Mr. Agio Julymar Fortaliza	フィリピン	生活介護サービス㈱	2020.1～2023.1
174	Ms. Nguyen Thi Thuy Quyen	ベトナム	社会福祉法人興風会	2020.10～2023.10
175	Ms. Le Thi Duyen	ベトナム	社会福祉法人興風会	2020.10～2023.10
176	Ms. Lang Thi Phuong Dung	ベトナム	社会福祉法人興風会	2020.10～2023.10
177	Ms. Tran Thi My Hue	ベトナム	社会福祉法人興風会	2020.10～2023.10
178	Ms. Huynh Thi Ngoc Thuy	ベトナム	社会福祉法人興風会	2020.10～2023.10
179	Ms. Danh Thi Thu Mai	ベトナム	社会福祉法人興風会	2020.10～2023.10
180	Ms. Villanueva Joyce Pesca	フィリピン	(有)山本	2020.12～2023.12
181	Ms. Sombong Ma Eden Eusebio	フィリピン	(有)山本	2020.12～2023.12
182	Ms. Benoyaco Eve Concepcion Dinulong	フィリピン	医療法人静心会桶狭間病院	2022.4～2025.4
183	Ms. Dumandan Alexandra Claudette Santos	フィリピン	医療法人静心会桶狭間病院	2022.4～2025.4
184	Ms. Huilar Jessa Jenn Soberano	フィリピン	社会福祉法人但馬福祉園	2022.6～2023.3
185	Mr. Junas Jasper Junsay	フィリピン	社会福祉法人但馬福祉園	2022.6～2025.6
186	Ms. Venzon Marissa Veniegas	フィリピン	生活介護サービス㈱	2022.6～2025.6
187	Ms. Campos Christlyn Palmos	フィリピン	生活介護サービス㈱	2022.6～2025.6
188	Ms. Espenorio Winielyn Atadora	フィリピン	生活介護サービス㈱	2022.6～2025.6
189	Ms. Javier Jovelyn Montano	フィリピン	生活介護サービス㈱	2022.6～2025.6
190	Ms. Millan Aiza Gladys Cordova	フィリピン	生活介護サービス㈱	2022.6～2025.6
191	Mr. Ocura Abe Raph Desuyo	フィリピン	生活介護サービス㈱	2022.6～2025.6
192	Ms. Villarosa Jeza Sagang	フィリピン	生活介護サービス㈱	2022.6～2025.6
193	Ms. Cacnio Hazel Dawn Corbeta	フィリピン	㈱ワラスト	2022.6～2025.6
194	Ms. July Lin Lin	ミャンマー	㈱やさしい手	2022.7～2025.7
195	Ms. May Mie Aung	ミャンマー	㈱やさしい手	2022.7～2025.7
196	Ms. Mi Yadana Mon	ミャンマー	㈱やさしい手	2022.7～2025.7
197	Ms. Soe Soe Mon	ミャンマー	㈱やさしい手	2022.7～2025.7
198	Ms. Yin Mon San	ミャンマー	㈱やさしい手	2022.7～2025.7
199	Ms. Khadijah Uswah Mujahida Akbari	インドネシア	医療法人財団竹栄会	2022.7～2025.7
200	Ms. Ghina Septiany Nurul Wahdah	インドネシア	医療法人財団竹栄会	2022.7～2025.7
201	Ms. Nonika	インドネシア	医療法人財団竹栄会	2022.7～2025.7
とび13名				
202	Mr. Mendoza Jomar Rico	フィリピン	㈱小林造園	2022.3～2025.3
203	Mr. Revilla John Vergel Garganta	フィリピン	㈱小林造園	2022.3～2025.3
204	Mr. Nguyen Quang Ninh	ベトナム	(有)大侑	2022.5～2025.5
205	Mr. Bui Van Tuan	ベトナム	(有)大侑	2022.5～2025.5
206	Mr. Nguyen Canh Gioi	ベトナム	(有)大侑	2022.5～2025.5
207	Mr. Muhammad Jaini	インドネシア	㈱神奈川フェンス土木	2022.6～2025.6
208	Mr. Ronaldi	インドネシア	㈱神奈川フェンス土木	2022.6～2025.6
209	Mr. Wahyudi	インドネシア	㈱神奈川フェンス土木	2022.6～2025.6
210	Mr. Yazid Al Bastomi	インドネシア	㈱神奈川フェンス土木	2022.6～2025.6
211	Mr. Zul Fahmi	インドネシア	㈱神奈川フェンス土木	2022.6～2025.6
212	Mr. Kenzo Lorenzo Da Concencao De Oliveira	インドネシア	㈱神奈川フェンス土木	2022.6～2025.6
213	Mr. Muhammad Aniq Azim Bin Zazuli	マレーシア	えすず㈱	2023.3～2026.3
214	Mr. Muhamad Zaki Azrin Bin Zainudin	マレーシア	えすず㈱	2023.3～2026.3
さく井2名				
215	Mr. Serbito Jester John Talledo	フィリピン	㈱常総興業	2022.7～2025.7
216	Mr. Bugtong Efren Decena	フィリピン	㈱常総興業	2022.7～2025.7

【実習科目及び国別研修生数】

実習科目 \ 国 別	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	ベトナム	合計
機械保全		2		3		5
建設機械施工	8	9				17
塗装		1		9		10
冷凍空気調和機器施工		6				6
溶接				9		9
鉄筋施工				21		21
配管		2				2
鋳造				3		3
型枠施工		4				4
建具製作	16					16
自動車整備		27		6		33
工業包装				16		16
射出成型				3		3
鉄工	9					9
防水施工				1		1
牛豚処理加工業				2		2
介護	3		10	25	6	44
とび	6	2		2	3	13
さく井				2		2
合計	42	53	10	102	9	216

3) 外務省 NGO インターン

令和 4 年度外務省主催「NGO インターン・プログラム」による研修を通じて、国際協力に必要なスキルを習得することを目的としており、研修期間中には各種書類作成及び提出、さらに海外研修が必須とされている。

国内においては、四国研修センターで海外研修生と寝食を共にしながら日常生活や農業実習を通じて、技術の習得や指導等にも携わり経験を積んだ。

海外研修はインドネシア・ジャワ島のチメンテン研修センターとカラングニアル研修センターに滞在しながら熱帯農業を体験する傍ら、オイスカが展開するマングローブや山間地の植林プロジェクト、また「子供の森」計画参加校等を訪問して同国でのオイスカ活動について理解を深めた。

期間：令和 4 年 6 月 13 日～令和 5 年 3 月 31 日

氏名：山崎 敦也

国内：オイスカ四国研修センター

海外：①オイスカ チメンテン研修センター

②オイスカ カランガニアル研修センター

4. 啓発普及事業

総括

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、森林保全活動、各種行事は延期や中止が繰り返されたが、オンライン活用や飲食を伴わない会合で一定の活動を実施できた。しかし海外視察・ボランティア派遣は渡航制限が続き、規模を縮小して一部実施した。

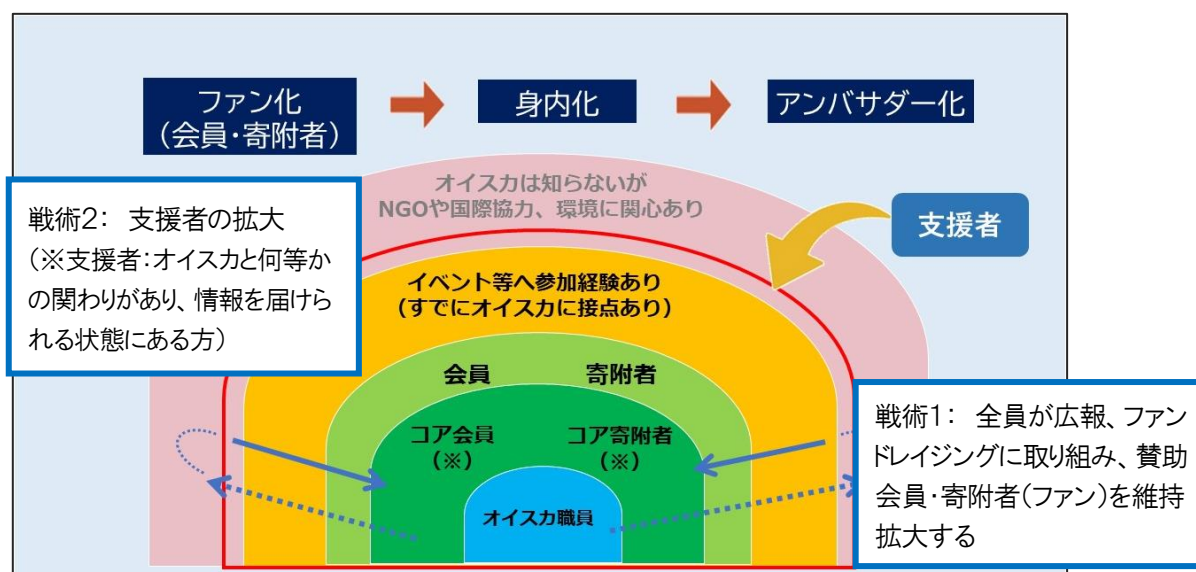
愛知県内に名古屋西推進協議会と知立推進協議会が新たに設立され、13支部と45の支援組織（活動推進協議会）となった。名古屋地区に東西南北の4カ所の支援組織が発足したことにとともに、名古屋地区協議会が設立され、支援組織単独では叶わない活動の推進が期待される。名古屋地区の支援組織拡充にとともに、愛知県支部の新規入会数が全体の新規入会の約5割を占める80件となった。

また、個人会員の平均年齢が70歳を超えており、さらに年々上昇している点、寄附者の平均年齢も70歳を若干下回る程度で、個人会員とほぼ同程度となっている点、オイスカ全体でダイレクトメールを出せる名簿がわずか7,000件程度しかないという点に対して、非常に危機感を持っている。2021年度に上記分析をして以来、平均年齢以下とくに若年層の理解者・支援者を増やさねばならないことを最重要課題と掲げ、長年の弱点の「個人対策」に取り組んできた。

2年目の季節募金は夏・冬2度実施し、ともに募金目標額に達したが、会員増強に関しては目標を達成できず、会員総数、会費総額はコロナ禍前の「横ばい」をも維持できず、減少傾向が続いた。

1. 啓発活動の推進

＜広報・ファンドレイジングのための「Global Sustainability Mission」戦略 概念図＞



戦術1: 全員が広報、ファンドレイジングに取り組み、賛助会員や寄附者（ファン）を維持拡大する

各種施策をしたものの、各項目ともに目標値に届かず、全職員 100 人、13 支部、45 推進協議会、役員約 1,000 人のネットワークを活かしきれず、「全員広報」の展開ができていない状況にある。

内容	2022 年度目標	2022 年度実績
各種活動への参加者数 *	10,000 人	7,760 人
賛助会員数	4,200 件	4,093 件
新規入会者数	250 件	167 件
退会者数	100 件	191 件
賛助会員受取会費収入	139,034,000 円	128,636,000 円
年間寄附者数	1,500 件	1,220 件

*本部・TC・支部で企画した各種活動への参加者のべ人数

「作戦1 「全員で広報しよう！」という意識醸成を念頭に置いた内部説明会の実施」

職員向けに会員数推移を含む概要、季節募金の意義を再認識させるセミナー等の開催、支部を含む役員会での会員や寄附者動向についてのプレゼンを実施したが、目標 25 回に対し、15 回の実施にとどまり、オイスカ全体に「全員で広報しよう！」という意識がまだ薄いと認識している。

「作戦2 支援者への確実なダイレクトメール送付」

全国各拠点での名刺交換者の個人情報のデータベース化を進めたものの、リストクリーニングも同時に進めた結果、DM 送付数目標 10,000 件に対し、7,355 件（夏募金）7,322 件（冬募金）にとどまった。名刺交換者などの潜在支援者のデータベース化が進まない理由は、セールスフォース（支援者管理システム）を導入した 2008 年当初から会員管理用システムという認識が強くあるためと認識している。職員の意識醸成のための内部説明会の実施が目標達成できなかったことも未達成にとどまった理由。

「作戦3 多様なファンドレイジング機会の設定」

2022 夏募金は、目標 500 万円に対し 5,125,973 円、2022 冬募金は、目標 800 万円に対し 8,030,602 円の実績となり、いずれも目標金額は達成。これまでの季節募金では、会員からの寄附が 58%（2021 冬）、56%（2022 夏）、48%（2022 冬）と推移しており、引き続き会員以外からの寄附獲得にも注力する。会費のみの寄附者からの寄附を含む新規寄附者推移は、130 人（2021 冬）、32 人（2022 夏）、77 人（2022 冬）となった。季節募金開始当初に比べ、減少しているが、新規寄附者数は重要数値と認識しており、以降の季節募金でも注視していきたい。

OB/OG 募金は、研修生 OB/OG とのネットワーク強化を主目的に実施し、フィリピンをはじめ 8 ヶ国 130 人からの寄附があり、目標 150 万円に対し 867,281 円となった。モンゴルなど、OB/OG のネットワークができている国がある一方で、フィリピンやインドネシアなどの OB/OG が多い

国ではネットワーク化が進まず、今後の事業推進にあたり研修生 OB/OG の人的ネットワークが重要になることから、引き続き、OB/OG 募金の枠組みを使い、ネットワーク強化を図りたい。

「作戦4 新規大型寄付獲得のための海外・国内法人対策」

海外事業部と連携して新しい助成・寄付先の獲得に取り組んでいる。300万円以上3件の新規獲得目標に対し、2022年度支援は国内企業1件（単年支援500万円で採択）に留まった。2023年度支援に向けて海外助成団体に1件（通知待ち）、外資系企業寄付1件（通知待ち）、国内助成団体に1件（単年100万円で採択）、国内企業寄付3件（不採択）を申請した。

「作戦5 支援者情報管理システム（セールスフォース）の有効活用」

支援者情報管理システム有効活用のための内部向けセールスフォース運用説明会を2回実施する目標であったが実施できなかった。各支部での閲覧は制限をかけており、会員のみデータが閲覧できるようになっていることから、講演会等のイベント案内送付などでの活用を考えると、閲覧制限についても検討が必要。

「作戦6 理念の浸透」

オイスカが実現したい未来や日々果たすべき役割を浸透させるため、2022年度に名刺デザインの統一と刷新を図ったのを機に、名刺の裏面を活用し、理念を掲載した。また、2022年4月号から毎号、広報誌OISCAの裏表紙に理念を掲載し、広く会員にも浸透するよう努めてきた。浸透には時間がかかるため、ホームページなども活用し、今後も理念の浸透に努める。

「作戦7 活動報告会・講演会等の充実」

全国各地で各種講演会・セミナー等の開催を通じて多くの一般市民、企業関係者、自治体が関わるできるようオンラインも活用し参加型の啓発普及活動を実施した。参加者目標3,295人に対し、2,357人の参加があった。

組織名	事業名	開催日	参加者数	開催場所
本部 首都圏支部	地球環境を考えるトークイベント2022冬（ハイブリット開催）	11月26日	220名	さいたま スーパーアリーナ
北海道支部	砂漠化防止プロジェクト報告会	5月26日	70名	株式会社アミノアップ
	オイスカ活動啓発 「渡辺会長講演会&交流会」	3月1日	43名	ホテルポールスター札幌
富山県支部	活動報告会&富樫智氏講演会	5月31日	55名	富山県民会館（富山市）
山梨県支部	やまなし水源地ブランドシンポジウム「持続可能な社会実現に向けて木育の果たす役割～SDGsの推進」	2月15日	80名	恩賜林記念館
静岡県支部	県支部 幹事会	年3回	65名	静岡放送会館
愛知県支部	オイスカデー2022	10月11日	130名	名古屋栄ガスビル
中部日本後援会	オイスカ活動報告会	2月15日	25名	オンライン

豊田推進協議会	樋泉理事講演会	2月17日	35名	研修センター
西尾推進協議会	東アジアの平和と繁栄 講演会	3月25日	76名	西尾商工会議所
みよし推進協議会	環境に学ぶ講演会	12月17日	60名	みよしサンライブ
関西支部	オイスカ関西のつどい2022	9月3日	98名	国民会館武藤記念ホール
四国支部	オイスカ四国のつどい	10月21日	約300名	ホテルパールガーデン
西日本支部	令和4年度 海外研修生入所式	5月21日	100名	センターホール
	福岡県議連報告会&懇親会	12月13日	100名	福岡県議会&県庁
	令和4年度 海外研修生修了式	3月18日	150名	センターホール
西日本支部 朝倉推進協議会	グリーンウェイブ活動10周年記念環境フォーラム	10月21日	700名	福岡県立朝倉東高校



オイスカ四国のつどい (四国支部)



県支部幹事会 (静岡県支部)



海外研修生入所式 (西日本支部)

「作戦8 マスメディア等への露出」

rkb 毎日放送で、海岸林再生プロジェクトの次世代リーダー育成のための虹ノ松原 (佐賀県) 訪問が数分間放映された。また、東京海上日動火災保険株式会社様のテレビCMとYouTubeCMで海岸林再生プロジェクトを扱っていただき、YouTubeは放映開始から10日間で249万回の視聴

があった。また、rkb 毎日放送で、西日本研修センターでの収穫祭の様子が約 1 分間放映された。30 回以上の目標に対し、19 回にとどまったため、さらにプレスリリースなどメディア向けに積極的な働きかけが必要。

戦術2: 支援者の拡大 (※支援者: オイスカと何等かの関わりがあり、SNS 含め情報を届けられる状態にある方)

各種イベントへの参加者を会員や寄附者にするという職員の意識がまだ薄く、ダイレクトメールの送付件数は伸び悩んでいる一方で、コツコツと発信を続けている SNS は着実に支援者数を伸ばしている。

内容	2022 年度目標	2022 年度実績
支援者数	10,000 件 (DM)	7,322 件 (DM)
	5,800 件 (SNS)	6,850 件 (SNS)

「作戦9 広報用ツールの充実 (コンセプトムービー、リーフレット制作など)」

コンセプトムービーについては、内部からの要望の声が大きくなかったため、制作は見送った。一方で、映像は訴求力が高いと認識しており、オンラインイベントの映像を YouTube に掲載することで認知度拡大に努めた。視聴回数は全 8 回でトータル約 2800 回。リーフレットの必要性は認識しているものの、3 月から制作にとりかかったため、完成には至っておらず、2023 年 6 月ごろ完成の予定。

「作戦10 デジタルツールを活用した支援者の外の層へアクセスし、支援者へ誘導」

(デジタルツール: ホームページ、YouTube、Facebook、Twitter、Instagram)

① ホームページでの情報発信強化

2022 年 2 月全面リニューアル時に主に法人向けサイトとしてデザインを考えてきたこともあり、アクセスは平日に集中しており、休日は平日の 2 分の 1 から 3 分の一程度。モバイル対応のサイトにした効果もあり、アクセス手段はモバイルが PC を逆転し 52%、PC46% (2021 年度: PC54%、モバイル 40%)。一日の最多アクセスユーザー数は 988 (3 月 29 日) で、ソーシャルメディアからの流入が 78% を占め、東京海上日動火災保険株式会社様制作のウェブ CM に関するオイスカ外のツイッターでの投稿の影響と思われる。

内容	2022 年度目標	2022 年度実績
年間訪問者数	ユーザー 30,000 件	ユーザー 50,593 件 (5/23~の計測値)
月平均訪問者数	2,500 件	4,216 件 (5/23~の計測値)
HP からの入会・寄附者数	165 件	143 件

② Twitter

「組織の認知度獲得 (潜在支援者含めて)」を目的とし、最新のニュースやイベント、活動情報など、今起きていることをリアルタイムに発信した。9~11 月のエンゲージメント率が 10% 以上と高い値を示し、オイスカ開発教育専門学校で実施したウクライナ学生支援日本語教育プロジェクト

トへの支援の呼びかけが影響しているものと分析している。フォロワー数は着実に増えており、今後も発信を継続していく。

内容	2021 年度目標	2022 年度実績
フォロワー数	1,000	1,495
エンゲージメント率	5%	2.2~15.8%

③Instagram

昨年度に比べ、投稿回数が約半数になった影響があり、リーチ数、インタラクション共に伸びなかった。

内容	2021 年度目標	2022 年度実績
フォロワー数	500	456
リーチ数	600 (1 カ月間)	323 (1 カ月間平均)
インタラクション(いいね、保存、コメント)	400 (1 カ月間)	66 (1 カ月間平均)

④YouTube チャンネル「OISCA Japan」

夏募金、冬募金関連の動画をはじめ、オンラインイベント動画をあわせ 40 本投稿したが、視聴回数、インプレッション&クリック数、チャンネル登録者数ともに目標に届かなかった。ホームページやブログでも積極的に動画の URL を掲載することで視聴回数を伸ばすとともに、チャンネル登録を促す文字を入れるなどの工夫をしていきたい。

内容	2022 年度目標	2022 年度実績
視聴回数	25,000 回	15,756 回
インプレッション&クリック数	5.0%	2.9%
チャンネル登録者数	1,500	1,161

⑤Facebook

支援者とのコミュニケーションツールとしてイベントや活動情報等を投稿し、月平均投稿数は 2021 年度の 7 回に比べ、2022 年度は 22 回と増加した結果、フォロワー数、リーチ数ともに目標を達成。Facebook はツールの特性上、情報拡散の面では弱いため、拡散性の高い Twitter との併用により、さらに認知度拡大とファン拡大に努める。

内容	2022 年度目標	2022 年度実績
フォロワー数	3,000	3,089
リーチ数	3,000	3,738 (月平均)

⑥オンライン報告会等の実施

オイスカを身近に感じてもらうことを目的に、対話と双方向性を意識し、11 回のうち 9 回を視聴者参加方式で実施。また、認知度拡大の目的では、インターン生が学生向けイベントを 3 回開催しており、若い層への認知拡大にある程度の効果があった。参加のべ人数 80 人の目標に対し、251 人の参加があり、うち、オイスカとの初めての関わりの方が 79 人あったことから認知度拡大の効果を計ることができる。参加者募集から管理までをオンサインサービス Peatix に一元化しており、担当者一人体制でも効率よく対応することができた。

	2022 年度目標	2022 年度実績
参加のべ人数	80 人	251 人
実施回数	2 回	11 回

第1回 (国内センター)

- 日 時：2022年5月28日14:00～15:00
- テーマ：「未来の農村リーダーを目指して！」＜オイスカ広場＞
- 報告者：国内研修センタースタッフ、研修生ほか

第2回 (タイ)

- 日 時：2022年6月30日19:00～19:45
- テーマ：「オンラインツアーで住民と共に歩んできた森づくりを知ろう」＜海外の事業紹介＞
- 報告者：タイ駐在代表 春日智実、現地スタッフほか

第3回 (交流会)

- 日 時：2022年7月23日19:00～20:30
- テーマ：「納涼！オンライン交流会 2022～オイスカの「仲間」とつながろう！～」＜交流会＞
- 報告者：東京本部スタッフほか

第4回 (国内センター)

- 日 時：2022年8月20日15:00～16:00
- テーマ：「オイスカ西日本研修センターをのぞき見！研修生とおしゃべり会」＜オイスカ広場＞
- 報告者：西日本研修センタースタッフ、研修生ほか

第5回 (モンゴル)

- 日 時：2022年9月22日19:00～20:00
- テーマ：「モンゴル出張報告！ ～モンゴルの「今」とオイスカモンゴルの「挑戦」に迫る～」
＜海外の事業紹介＞
- 報告者：海外事業部課長 藤井啓介 現地スタッフほか

第6回 (グローバルフェスタ)

- 日 時：2022年10月2日14:30～15:30
- テーマ：「オイスカスタッフと夢へのヒントを見つけるオンライン交流会」＜インターン企画＞
- 報告者：タイ・ラノーン駐在員 高木美智代 ほか

第7回 (国内センター)

- 日 時：2022年11月12日10:30～
- テーマ：第14回オイスカ収穫感謝祭・秋のFacebookライブ＜オイスカ広場＞
- 報告者：海外事業部 浅野奈々穂 ほか

第8回 (交流会)

- 日 時：2022年12月23日19:30～21:00
- テーマ：「自分らしく過ごせる「コミュニティ」とは？」＜オイスカ広場＞
- 報告者：やまぐちグローバルネット 代表 柿沼 瑞穂、
一般財団法人くまもと未来創造基金 ファンドレイザー 宮原 美智子 ほか

第9回 (交流会)

- 日 時：2023年2月4日16:00～16:35
- テーマ：国際NGO オイスカ学生インターンが語る！海外での環境教育体験談
＜インターン企画・ワンワールドフェスティバル＞
- 報告者：学生インターン 青山優菜、中屋美里

第10回（国内センター）

■日 時：2023年2月22日 19：30～20：30

■テーマ：「2022年度オイスカ研修生の帰国後の目標は何ですか？」＜座談会＞

■報告者：国内各研修センタースタッフ、研修生 ほか

第11回（インターン報告会）

■日 時：2023年3月16日 19：00～20：00

■テーマ：「国際協力×環境問題が気になる仲間とつながりたい！ by オイスカ学生インターン」

＜インターン企画＞

■報告者：学生インターン 青山優菜、吉田のどか

「作戦11 一般向けイベント開催・参画」

	2020年度目標	2022年度実績
実施回数	50回	23回
参加人数	4,043人	2,611人(カウント不可のもの除く)

組織名	事業名	開催日	参加者数	場所
北海道支部	健康教育「いのちを考える学習・生と性を考えるカフェテリア」	10月23日	24名	札幌開成中等教育学校（札幌市）
	第21回オイスカ北海道「子供の森」計画チャリティーディナーコンサート	11月28日	178名	ホテルポールスター札幌（札幌市）
首都圏支部	国際協力活動支援「チャリティーバザー」	10月22日	100名	東京本部
	なかのエコフェア	11月12日	多数	中野四季の森公園
	国際森林デー2023 中央行事	3月18日	100名	江東区青海「海の森公園」
富山県支部	とやま環境フェア2022（ハイブリット開催）	10月7日～1月9日	多数	富山市民プラザ（富山市）
	チャリティーゴルフコンペ	11月3日	46名	呉羽カントリークラブ（富山市）
山梨県支部	みずともりフォレストトリート@南アルプスはやかわ	11月12,13日	14名	早川町
愛知県支部	チャリティーゴルフ大会	11月15日	91名	豊田市
	交流会	12月13日	20人	上鷹見小学校
	交流会	12月15日	50人	豊田東高校
知立推進協議会	知立福祉健康祭り	1月29日	多数	知立市文化会館
半田推進協議会	国際交流会	7月12日	20名	ステーキハウス森牧場
関西支部	みんな仲間だ！フェスティバル	12月10日	40名	クレオ大阪中央館
	ワン・ワールド・フェスティバル（ハイブリット開催）	2月4,5日	多数	大阪北区民センター、関テレ、扇町公園ほか
広島県支部	四国・中部日本研修センター研修生の広島研修受入	11月29,30日	18名	広島平和記念資料館、宮島ほか
西日本支部	オイスカパネル展 農産物販売会	7月19日～22日	多数	福岡県庁ロビー
	オイスカ農産物販売会	11月29日～30日	多数	
	餅つき大会	11月26日	130名	脇山小学校
	体験農園餅つき大会	12月24日	120名	センター
	チャリティーゴルフコンペ	2月19日	60名	伊都ゴルフ倶楽部

西日本支部 西日本研修センター	収穫感謝祭	11月12日	1600名	センターグランド
長崎県推進協議会	国際経営学部との交流会	5月31日	多数	長崎県立大学



上鷹見小学校交流会（愛知県支部）



四国・中部日本研修センター研修生視察受入
（広島県支部）

2. 支部の海外・国内活動支援拡充と海外との交流事業

（1）海外現場視察・ツアー開催

組織名	人数	訪問先
北海道支部	5名	フィリピン アブラ州
静岡県支部	2名	インド デリー
茨城推進協議会	2名	フィリピン 西ネグロス州
茨城推進協議会	15名	フィリピン 西ネグロス州



フィリピン西ネグロス州訪問（茨城推進協議会）



インド・デリー訪問（静岡県支部）

3. 国内環境保全活動

オイスカが進める森林整備活動等は、企業と協働し、植栽、間伐といった地域のニーズに即した森林整備や里山再生活動を行っている。同時に日本の林業を支え、持続可能な社会を目指すために国産木材の利用や森林の活用を促進すると共に、その循環の仕組みづくりに取り組んでいる。

	2022年度計画	2022年度実績
参加人数	3,350人	1,900人

(1) 持続可能な森林経営を通じた地球環境の保全

① 企業等との協働による森林保全活動

事業名	実施月	活動内容	参加者数	活動場所
富士山の森づくり	通年	獣害防止対策ネット補修、鳥類調査など	341名	山梨県鳴沢村
甲州市・オルビスの森づくり	11月	鹿よけネットの撤去、環境教育プログラム体験など	19名	山梨県甲州市
本田技研工業 秩父の森づくり	6, 10月	下草刈り作業	70名	埼玉県秩父市
ライオン山梨の森づくり	通年	落葉堆肥作りと苗作り、残土置き場への小樹木移植、林内歩道づくり、造成地下草刈り など	199名	山梨県山梨市
東急ホテルズ グリーンコインの森	5, 11月	間伐地の見学と屋内での座学・ワークショップ、遊歩道の整備と耕作放棄地での農作業	75名	山梨県丹波山村
プロネクサスの森	5, 11月	新規協定の調印及び記念植樹、活動地への看板設置	23名	山梨県道志村
三菱自動車工業 パジェロの森	6, 9月	間伐材の林外搬出及び耕作放棄地の草刈り、下草刈り及び木育プログラム	225名	山梨県早川町

② 全国支部組織の環境保全活動

組織名	事業名	開催日	参加者数	活動場所
北海道支部	森づくり活動 2022 in えこりん村	5月28日	39名	えこりん村の森 (恵庭市)
	「オイスカの森」生育状況視察	9月17日	8名	オイスカの森 (当別町)
	学生の農業 (収穫) 体験	8月11日	11名	東裏地区農園 (当別町)
	野幌森林公園 トトロップの森「植樹祭」	10月8日	61名	野幌森林公園 (江別市)
	秋の「森の整備」	10月11日	6名	えこりん村の森 (恵庭市)
	森の体験・体感学習	10月16日	11名	えこりん村の森 (恵庭市)
首都圏支部	2022年「海の森公園」ボランティア ～本格開園に向けた樹林育成・保全作業～	6月11日	45名	江東区青海「海の森公園」
静岡県支部	富士山の森づくり	7月9日	11名	山梨県鳴沢村
愛知県支部	「オイスカの森」整備活動	5月15日	12名	愛知県設楽町
豊田推進協議会	海岸林再生プロジェクトボランティア	7月4, 5日	20名	宮城県名取市
	農業ボランティア	5月21日	60名	オイスカ中部日本研修センター
		5月28日	16名	
		6月4日	17名	
		7月23日	16名	
		8月20日	18名	
		9月17日	25名	
		10月15日	17名	

		12月17日	14名	
		2月18日	21名	
		3月25日	18名	
富山県支部	緑の里山保全の森づくり活動	5月28日	41名	天林地区 (富山県中新川郡)
		6月12日	74名	
		7月23日	10名	
		9月10日	24名	
	海岸林再生プロジェクト視察・ボランティア活動	9月23,24日	15名	宮城県名取市
関西支部	「ふれあいの森」整備活動	12月3日	17名	大阪府四条畷市
四国支部	富士山の森づくり	7月9日	16名	山梨県鳴沢村
	第27回山林SUN体験	11月27日	76名	尾の瀬山オイスカ憩いの森 (香川県まんのう町)
四国支部 愛媛県推進協議会	Mt.LOVE10	9月7日	23名	忽那山(松山市)
四国支部 高知県推進協議会	四万十川「よんでんの森」	11月21日	7名	よんでんの森(四万十市)
広島県支部	オイスカ広島の森づくり活動	5月28日	29名	廿日市市吉和 県立もみのき森林公園
	山・林・SUN活動	7月30日	68名	
西日本支部	佐賀県推進協議会&佐賀県議連 海岸林再生プロジェクト ボランティア	7月12日~14日	12名	宮城県名取市
	グリーンウェイブ植林	3月4日	90名	朝倉市寺内ダム上流



トトロップの森「植樹祭」(北海道支部)



農業ボランティア(豊田推進協議会)



富士山の森づくり(山梨県支部・静岡県支部・四国支部)

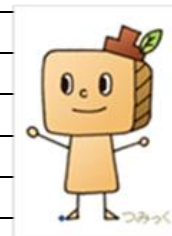
(2) 各種体験・啓発活動

①森のつみ木広場、木育推進事業

全国の支部・支援組織などを中心に子どもたち（親子）が遊びを通して木に触れる「木育ひろば」や「森のつみ木広場」などを実施する木育推進事業は、保育園や小学校からのニーズも増え、全国で昨年比の2倍以上の開催となった。また、令和4年度は木材の活用、地域の活性化を目指し、地域のこども園や、やまなし水源地ブランド推進協議会、NPO 法人木 net やまなし、企業など産官民の協働で開発された地域材の30種類以上の木のおもちゃを新たに開発した。

これらを活用し、さらに「木育ひろば」を開催し多くの子どもたちが木に触れる機会を創出し、いくとともに、人材の育成を目的に、大人に向けた啓発普及活動として「木育スクール」等のプログラムの開発を行っていくことで、持続可能な社会の構築を目指していきたい。

組織名	開催日	開催場所・イベント名 等
北海道支部	9月27日～	森のつみ木広場の環境教育教材「デジタル紙芝居」企画・制作 札幌開成中等教育学校
山梨県支部	4月8日	木育おもちゃ説明会・木育おもちゃ寄贈（目黒区）
	5月31日	木育おもちゃ意見交換会（品川区）
	8月11,12日	木育キャラバン（甲府市）
	8月20日	ITOKI Family Day 2022（東京都中央区）
	9月3日	木育スクール（北杜市）
	2月22日	つみ木・木育ファシリテーター講座（品川区）
長野県支部	5月30日	田川児童センター（松本市）
	6月27日	島内児童センター（松本市）
	6月28日	入山辺保育園（松本市）
	10月28日	二子児童センター（松本市）
	12月9日	島立児童センター（松本市）
	12月20日	入山辺保育園（松本市）
	3月22日	高宮児童センター（松本市）
愛知県支部	7月12日	大口町北保育園（丹羽郡）
	11月8日	大口町南保育園（丹羽郡）
	3月22日	扶桑幼稚園（丹羽郡）
関西支部	5月21日	大阪市立玉手小学校体育館（大阪市）
	10月27日	大阪市立瓜破東小学校体育館（大阪市）
	11月28日	大阪市立中津小学校体育館（大阪市）
	11月29日	大阪市立中津小学校体育館（大阪市）
	11月30日	大阪市立東都島小学校体育館（大阪市）
四国支部	6月26日	浅野コミュニティセンター（高松市）
	10月8日	綾川町立図書館（綾川町）
	11月27日	塩江温泉研修館（まんのう町）
広島県支部	6月5日	ひろしま「山の日」県民の集い（廿日市市）





4. 東日本大震災復興支援

【 海岸林再生プロジェクト 第2次10ヵ年計画(2021-2030) 】

SDGsの趣旨に添い、ECO-DRR(森林など生態系を活用した防災・減災)を念頭においたプロジェクト。これまでの寄付金を積み立て(特定費用準備資金)、事業を継続している。

今後も続く育林作業は、下刈、葛・藤などのツル切り・外来種ニセアカシアなどの除伐、排水路修復・新設、本数調整伐(間伐)、作業道維持管理、生長モニタリング・本数調整伐調査、マツクイムシ被害防止対策、定期巡視、各種啓発活動等。資金が尽き果てるまで、第3次10ヵ年計画(2031-2040)を目標に育林に関わる計画。

海岸防災林における事業規模の本数調整伐は全国初と言われている。「1伐2残」(33%伐採、汀線に平行に2列残して1列伐採)で、2021年度に10.13ha(2014年植栽地)実施。2022年度は14.53ha(2014・15年植栽地)を実施。約50年かけて6回繰り返し、5,000本/haを400本ないし800本に仕立てる。

なお、伐採木は堆肥、チップ、木質ペレット燃料、バイオマス発電などに100%再利用される。

(1) 主な施業

実施内容	実施日	備考
ボランティアによる下刈・排水溝修復・増設	4月16日～10月8日 3月11日	のべ約868人
下刈、法面・道刈	6月15日～9月30日	合計約47.61ha 1回もしくは2回刈 宮城中央森林組合 (管理道、2018年植栽地等29.35ha) 松島森林総合 (管理道・法面、2018-20植栽地等18.26ha)
ニセアカシア・葛枯殺処理	6月15日～9月30日	松島森林総合 *協定地全域
生長モニタリング調査	11月5日・19日	年1回調査 *別途、森林総研等との根系生長調査
本数調整伐	12月22日～3月31日	2014・2015年植栽地14.53ha・1伐2残 宮城中央森林組合、松島森林総合 *北釜残存林内の実生クロマツも実施
本数調整伐指導者講習会	1月21日・2月4日	ボランティア対象に2回・のべ41人(頭数30人)
巡視・ゴミ拾い	通年	

(2) 主な活動実績

4月10日	河北新報で写真紹介
4月16日	公募ボランティアの日 32名
5月9日	佐賀推進協議会で活動報告 6名
5月14日	公募ボランティアの日 32名
5月20日	森林総研&名古屋大学 地中レーダ予備調査
5月21日	長野県支部総会で活動報告 10名
5月22日	京セラ労組 22名ボランティア
5月30日	宮城県林業振興協議会功労賞を再生の会とともに受賞(治山事業の部)
6月1日	北日本新聞で紹介
6月1日	「水利科学」No.375(日本治山治水協会)「名取市海岸における海岸林再生植林等の取り組み ―実行方法と生育状況―」著者:佐々木 廣一 J-Stage に公開
6月1日	2022年3月26日 森林立地学会主催のオンライン公開シンポジウム「津波にねばり強い海岸林づくりのこれまでとこれから」公開
6月2日	カネボウ労組 32名ボランティア
6月7日	森林総研&名古屋大学 地中レーダ根系調査(1・6区)
6月9日	宮城県庁写真展
6月10日	化学総連 48名ボランティア
6月11日	ANA 労組 75名ボランティア
6月20日	鹿島建物管理(株)安全衛生協力会東北支部にて講演 70名
6月24日	東京都立大学院川東教授・学生 3名調査
6月25日	公募ボランティアの日 34名
7月4日	岩手大学森林科学科 6名視察
7月4・5日	豊田推進協議会 19名ボランティア
7月8日	県海岸防災林協議会幹事会出席
7月9日	公募ボランティアの日 35名
7月12日	佐賀推進協議会 5名&佐賀県議連 7名
7月15日	県海岸防災林協議会総会出席
7月28日	ダイエーユニオン視察 30名
7月30日	公募ボランティアの日 23名
8月6日	UA ゼンセン 39名ボランティア
8月27日	公募ボランティアの日 21名、ウズベキスタン研修生ティムール氏帰国前研修
8月29・30日	マルエツ労組 31名ボランティア
9月1日	名取駅東西通路写真展～30日 *駅で12回目
9月2日	UA ゼンセン 40名、東北電力労組 25名ボランティア
9月3日	公募ボランティアの日 14名
9月4日	ホテル観洋にて鈴木英二会長講演 100名
9月5日	河北新報で紹介
9月16日	高島屋労組 19名ボランティア
9月17日	公募ボランティアの日 41名
9月23・24日	富山県支部 15名ボランティア
10月1日	公募ボランティアの日 51名
10月8日	UA ゼンセン 33名ボランティア、タイ駐在代表春日智実さん参加
11月5日	公募ボランティアの日 34名
11月7～11日	森林総研・名古屋大学院 根系地中レーダ調査
11月9日	仙台青葉RC卓話 50名
11月13日	玄界灘松原サミット参加 25名

11月16日	仙台北RC卓話40名
11月18日	東京海上HD10名ボランティア
11月19日	公募ボランティアの日70名
12月9日～11日	高校生・大学生海岸林リーダー1期生4名 福岡・佐賀ツアー
12月11日	Date fin 出演
12月13日	tbc ラジオ電話出演
12月17日	みよし推進協議会で活動報告60名
12月17日	UA ゼンセン熊本支部現場視察16名
1月12日	西日本新聞で高校生・大学生ツアー虹ノ松原体験が紹介
1月21日	公募ボランティアの日・本数調整伐講習会21名
1月21日	高校生・大学生海岸林リーダー1期生 福岡・佐賀ツアー報告会
1月26日	読売新聞で大阪マラソン紹介
2月4日	公募ボランティアの日・本数調整伐講習会20名
2月5日	読売新聞宮城版で紹介
2月6日	河北新報で紹介
2月26日	大阪マラソン チャリティーランナー34名
3月2日	名取駅写真展～30日 *駅で13回目
3月2日	日経新聞全国版で紹介
3月3日～5日	高校生・大学生海岸林リーダー2期生3名 福岡・佐賀ツアー
3月10日	RKB 毎日放送で高校生大学生ツアーが紹介
3月11日	県立名取北高校野球部12名、顧問2名ボランティア
3月11日	仙台東RC60周年記念式典で講演150名
3月22日	東京海上日動火災保険(株)CM放送開始 *30秒版テレビCM:1,145万回、3分版WebCM:249万回視聴

(3) 震災から12年間(2011-2022)の累計実績

- 協定締結面積 **103.05ha**
*内訳:国有林:2.91ha、県有・市有林:96.4ha、内陸防風林共有林等:3.74ha
- 植栽実面積 **72.46ha**
- 植栽完了本数 **370,198本** (他市海岸林等への協力68,288本除く)
*内訳:マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ・精英樹クロマツ 369,527本、広葉樹11種683本
- 植栽平均活着率 **99.2%**
- 雇用数 **9,653人** (8時間/日人、12年無事故)
- 8時間従事ボランティア数 **12,789人** (リピート率約5割。12年無事故)
- 視察者数 **3,609人**
- 外国人来訪者 **64カ国・268人** (オイスカスタッフ・政府職員・メディア)
- 活動報告会・講演会 **280回・43,778人** (24都道府県)
- 写真展 **91回**
- 寄附金募集パンフレット配布数 **29万枚**
- 記録動画自主制作 **15本**
- HPブログ更新 **2,650回更新** (震災から12年、4,403日中)
- 国内メディア紹介 **305回**
- 寄附者数 **2,220人** (うち会員3割)

●寄附金等総収入

約9.1億円（2022年度 寄附額約3千万円）



2014・15年植栽地 約26ha 全景（左：2016年撮影 右：2020年撮影）

5. 国際連携・交流促進

(1) 国際会議等の開催

① 環境教育を基盤とした青少年育成に関する国際会議

開催日：令和4年10月4日（火）

場 所：オンライン実施（オイスカ本部を拠点に19か国より参加）

出席者：13カ国162名

内 容：

1. アジア太平洋に推進している「子供の森」計画の青少年を対象とした環境教育、植林活動、及び活動において、コロナ禍の活動の在り方やどのような相互の協力が出来るか方策を話し合った。
2. コロナ禍の青年育成活動を充実させるため、どのような手法が効果的か検証し、実践で活かすことができるかを検討した。
3. 途上国への青少年活動支援に対して、参加を促すためにどのような方策が効果的であるか話し合った。

② オイスカ支援連携サミット

1. 概 要：

オイスカは「人材育成事業」を活動の柱とし、国内外の国際協力の最前線で活躍する人材を輩出してきた。しかし国際社会や経済の発展に伴い各国で求められる人材育成も大きく変化している。将来にわたり「オイスカの人材育成事業」はどう社会の潮流に則し展開していくか、また目指すのか、新たな方向性や事業展開をはじめ支援の意義を打出し支援者（会員）の拡大につなげていくための議論をおこなった。また2日目は『日本で学んだ海外研修生のSDGsへの貢献』をテーマにシンポジウムを開催し、150名が参加した。なお本サミットには、国内4研修センター所長及び、各研修センターが所在する支部会長（中部日本・関西・四国・西日本）が中心となり実施した。

2. 開催日： 令和5年1月27日（金）・28日（土）

3. 会 場： オイスカ西日本研修センター

③ 「地球環境を考えるトークイベント 2022 冬」

1. 概 要：

人為的な伐採、自然災害による消失など、世界の森林は荒廃の一途を辿っている。タイやインドネシアの消失したマングローブ林、フィリピンのはげ山、内モンゴルの拡大する沙漠、東日本大震災で壊滅した海岸林。オイスカは、こうした地域で10年、20年という長い年月にわたり活動を続けて来ている。これらの持続可能な取り組みのカギは、「地域住民」との向き合い方にある。

オイスカは、今後10年の一大プロジェクトとして、20世紀最大の環境破壊と言われるウズベキスタンのアラル海で4万ヘクタールの沙漠緑化に挑んでいる。本イベントでは、ウズベキスタンのプロジェクトを例に、SDGsの本道を貫く「オイスカの緑化」の神髄を紹介した。

2. 開催日： 令和3年11月26日（土）

3. 会 場： さいたまスーパーアリーナ4階 TOIRO スペース4

5. 収益事業

総括

当法人所有の固定資産の有効活用や公益目的事業と位置付けられない受託事業等を実施、利益の50%を公益目的事業に資した。

1. 不動産等の賃貸収益

(1) 所在地：福岡県福岡市内浜一丁目 560 m²

貸与先：三菱UFJリース（株）

※事業用定期借地権設定契約

(2) 所在地：東京都杉並区和泉三丁目6-12

賃貸物件名：オイスカハウス永福町 752.20 m² (25戸分賃貸面積)

管理委託先：京王不動産（株）

※賃貸運営管理業務委託契約

(3) 所在地：東京都杉並区和泉二丁目17-5

賃貸物件名：オイスカ国際協力総合センター1階 329.81 m²

貸与先：株式会社ディアローク

※普通賃貸契約

(4) 所在地：東京都杉並区和泉三丁目6-12

賃貸物件：オイスカハウス永福町駐輪場 4.00 m²

貸与先：（株）ループ

※Port 設置保管場所契約

2. 農場管理受託収益

(1) 委託場所：愛知県豊田市勘八町（豊田市旧畜産センター） 58,371 m²

管理棟及び農場等の管理

委託者：豊田市

※業務委託契約

6. 組織の運営

令和4年度においては評議員会を1回、理事会を4回開催し、健全な運営に努めた。会議、役員、職員に関する件は次のとおりである。

1. 会議の開催

(1) 評議員会

①令和4年度定時評議員会

日時：令和4年6月21日(火) 12:30~14:00

場所：衆議院第一議員会館 地下1階 第一会議室

議題：

- 第1号議案：令和3年度事業報告・決算書類(案)及び監査報告
- 第2号議案：任期満了に伴う監事の選任(案)について
- 第3号議案：任期満了に伴う評議員の選任(案)について

報告事項

- ・令和4年度事業計画・予算について
- ・令和3年度特定資産等の資金運用状況
- ・ウクライナ危機に対する基本方針について

(2) 理事会

①令和4年度第1回理事会

日時：令和4年6月6日(月) 12:30~14:00

場所：衆議院第一議員会館 地下1階 第一会議室

議題：

- 第1号議案：令和3年度事業報告・決算書類(案)及び監査報告
- 第2号議案：令和3年度新規賛助会員の承認(案)について
- 第3号議案：令和3年度国際協力活動推進基金明細書について
- 第4号議案：個人情報保護基本方針及び個人情報保護規程改正(案)
- 第5号議案：任期満了に伴う評議員候補の推薦(案)について
- 第6号議案：支部会長の選任(案)について
- 第7号議案：任期満了に伴う顧問・参与の委嘱(案)について
- 第8号議案：定時評議員会の開催(案)について

報告事項

- ・令和3年度特定資産運用状況について

②令和4年度第2回理事会(書面審議)

日時：令和4年10月25日(火)

議題：

- 第1号議案：山梨県支部会長の選任及び参与委嘱(案)について
- 第2号議案：「オイスカ」を冠する業務連携団体の承認(案)について

③ 令和4年度第3回理事会

日時：令和4年12月15日(木) 13:00～14:00

場所：衆議院第一議員会館 地下1階 第二会議室

議題：

第1号議案：資産取得資金及び特定費用準備資金の一部組替え(案)について

第2号議案：資金運用規程の一部改正(案)について

第3号議案：令和5年度事業計画、予算編成方針(案)について

第4号議案：顧問の委嘱(案)について

報告事項

・代表理事、業務執行理事の業務報告

④ 令和4年度第4回理事会

日時：令和5年3月7日(火) 12:30～14:00

場所：衆議院第一議員会館 地下1階 第四会議室

議題：

第1号議案：令和4年度補正予算(案)について

第2号議案：令和5年度事業計画・予算(案)について

第3号議案：関西支部次期会長の選任(案)について

第4号議案：育児休業規則(通称)の一部改正(案)について

第5号議案：令和5年度定時評議員会の開催(案)について

第6号議案：四国研修センター本館改修事業の業者選定(案)について

2. 役員

令和5年3月31日現在における当法人の役員等は次の通りである。

会 長

渡辺 利夫 拓殖大学顧問

(1) 評議員

No.	氏 名	役 職
1	赤 阪 清 隆	元国連広報担当事務次長
2	岡 田 康 男	弁護士
3	神 野 重 行	三重産業(株) 代表取締役
4	佐 伯 勇 人	四国電力(株) 取締役会長
5	佐 藤 百 合	(独法) 国際交流基金 理事
6	篠 塚 徹	拓殖大学北海道短期大学 学長
7	進 士 五十八	福井県政策参与
8	中 村 利 雄	(公財)全国中小企業振興機関協会 会長
9	ペマ・ギャルポ	拓殖大学 国際日本文化研究所 客員教授
10	森 本 英 香	早稲田大学法学部 教授 / 元環境事務次官
11	マリ クリスティーヌ	東京女子大学 現代教養学部 教授

(2) 代表理事

No.	氏名	役職
1	中野悦子	理事長
2	廣瀬道男	副理事長

(3) 業務執行理事

No.	氏名	役職
1	永石安明	専務理事
2	森田章	常務理事

(4) 理事

No.	氏名	役職
1	石井淑雄	(株)石井 代表取締役会長
2	瓜生道明	西日本支部会長 九州電力(株)代表取締役会長
3	樋泉克夫	愛知県立大学 名誉教授
4	光岡保之	愛知県支部 会長
5	湧井敏雄	首都圏支部会長、前神奈川経済同友会専務理事

(5) 監事

No.	氏名	役職
1	神山敏夫	税理士・公認会計士
2	梶川幹夫	元財務省 関税局長

(50 音順)

(6) 顧問

No.	氏名	役職
1	荒木光弥	国際開発ジャーナル編集主幹
2	太田猛彦	東京大学名誉教授
3	荻田知英	中国電力(株)相談役
4	小林健	日本商工会議所会頭
5	櫻田謙悟	(公社)経済同友会代表幹事
6	篠沢恭助	(公財)資本市場研究会顧問
7	新木富士雄	北陸電力(株)名誉顧問
8	十倉雅和	(一社)日本経済団体連合会長
9	中野利弘	前(公財)オイスカ理事長
10	廣野良吉	成蹊大学名誉教授
12	榊本晃章	(一財)日本原子力文化財団理事長
13	松尾新吾	九州電力(株)特別顧問

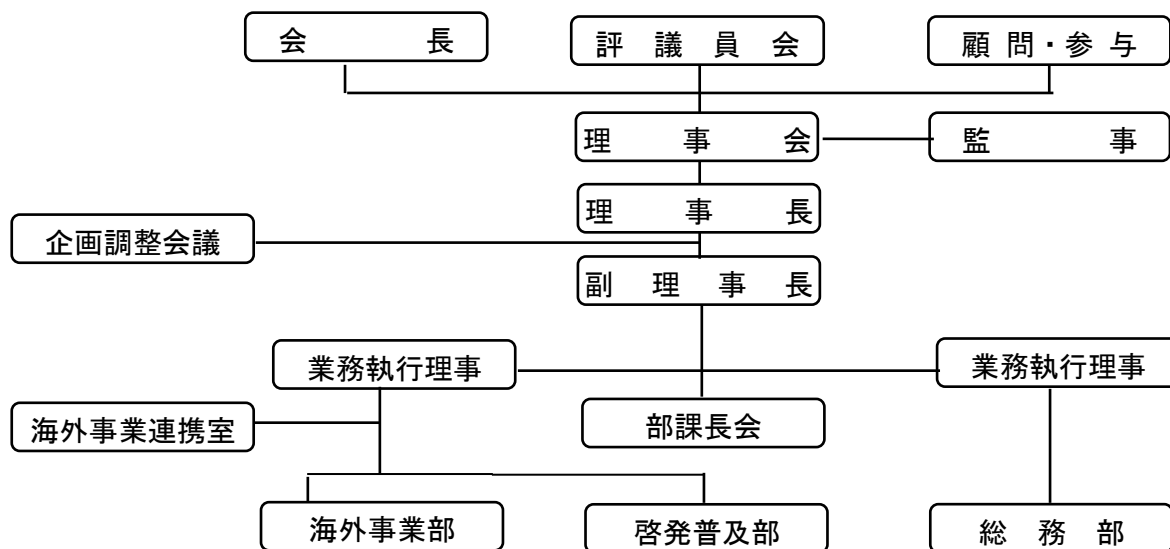
(7) 参与

No.	氏名	役職
1	泉雅文	四国支部会長
2	逢見直人	(公財)富士社会教育センター理事長
3	岡崎昌三	関西支部会長
4	小川信也	岐阜県支部会長
5	落合偉洲	静岡県支部会長
6	鬼石貞治	(学)中野学園オイスカ浜松国際高校校長
7	亀井文行	宮城県支部会長
8	木島正芳	元東京入国管理局長
9	久和進	富山県支部会長
10	黒柳俊之	元(独)国際協力機構理事
11	小林泉	大阪学院大学国際学部教授
12	茂田和彦	(公社)大日本山林会監事
13	杉下恒夫	(一財)国際開発機構理事長
14	中村陽子	NPO 法人メダカのがっこう理事長
15	西脇芳和	(公財)損保ジャパン環境財団専務理事
16	平林靖久	長野県支部会長
17	松村秀雄	広島県支部会長
18	宮嶋嘉則	CELCO JAPAN 特別顧問
19	宮島雅展	山梨県支部会長
20	山下雅子	社会保険労務士
21	横山清	北海道支部会長

(50音順、令和5年3月31日現在)

3. 事務機構及び職員

(1) 機構図



- ・ 海外開発協力事業(公 1)
- ・ 「子供の森」計画事業(公 2)
- ・ 人材育成事業(公 3)
- ・ 啓発普及事業(公 4)

〈令和 5 年 3 月 31 日現在〉

(2) 職員

令和 5 年 3 月 31 日現在における本法人職員(パート職員含む)は次のとおりである。

事務所	職員数
本部(海外赴任者含む)	37
西日本研修センター	12
中部日本研修センター	10
四国研修センター	9
関西研修センター	2
地方組織	15
合計	85

令和4年4月1日～令和5年3月31日 賛助会員数の動向と会費入金額
会員の動向

	期首会員数		期末会員数		期首と期末の増減数	
	合計 件数	法人 個人	合計 件数	法人 個人	合計 件数	法人 個人
本部直轄	173	46 127	158	38 120	15	8 7
北海道支部	80	55 25	80	58 22	0	3 -3
宮城県支部	205	119 86	198	117 81	7	2 -5
首都圏支部	326	140 186	326	140 186	0	0 0
山梨県支部	94	47 47	88	42 46	6	5 -1
長野県支部	123	56 67	120	56 64	3	0 -3
富山県支部	131	80 51	134	81 53	3	1 2
静岡県支部	226	77 149	217	77 140	9	0 -9
愛知県支部	824	272 552	873	287 586	49	15 34
岐阜県支部	132	37 95	125	34 91	7	3 -4
関西支部	82	31 51	82	33 49	0	2 -2
広島県支部	66	42 24	70	42 28	4	0 4
四国支部	877	214 663	855	213 642	22	1 -21
西日本支部	762	302 460	767	304 463	5	2 3
合計	4,101	1,518 2,583	4,093	1,522 2,571	8	4 -12

会費入金額(千円)

	令和3年度入金額		令和4年度入金額		前年度との 差額	前年比
	法人 個人	合計	法人 個人	合計		
	4,928	2,280 2,648	4,502	2,030 2,472	-426	91.4%
	2,645	2,200 445	2,670	2,250 420	25	100.9%
	7,960	6,320 1,640	7,900	6,250 1,650	-60	99.2%
	15,453	11,240 4,213	15,039	11,175 3,864	-414	97.3%
	3,080	2,070 1,020	2,720	1,930 790	-370	88.0%
	3,515	2,300 1,215	3,088	2,020 1,068	-427	87.9%
	5,140	4,120 1,020	4,880	3,950 930	-260	94.9%
	7,244	4,590 2,654	7,156	4,490 2,666	-88	98.8%
	23,693	13,250 10,443	24,528	14,030 10,498	835	103.5%
	3,494	1,770 1,724	3,454	1,810 1,644	-40	98.9%
	3,207	2,125 1,082	3,190	2,240 950	-17	99.5%
	2,690	2,180 510	2,740	2,180 560	50	101.9%
	23,524	10,130 13,394	22,556	10,120 12,436	-968	95.9%
	24,795	15,110 9,685	24,213	15,100 9,113	-582	97.7%
合計	131,378	79,685 51,693	128,636	79,575 49,061	-2,742	97.9%

附属明細書

令和5年3月
公益財団法人オイスカ

なお、令和4年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。